

令和4年度 高齢者実態調査報告書 《本人調査》

認知症関連抜粋

大 阪 市

－ 目 次 －

本人調査結果	3
問 15 人生会議（ＡＣＰ）の認知度	3
問 18 認知症の認知度	5
問 19 認知症の人の支援	7
問 24-2 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の利用目的と満足度	10
問 30 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向	12

本人調査結果

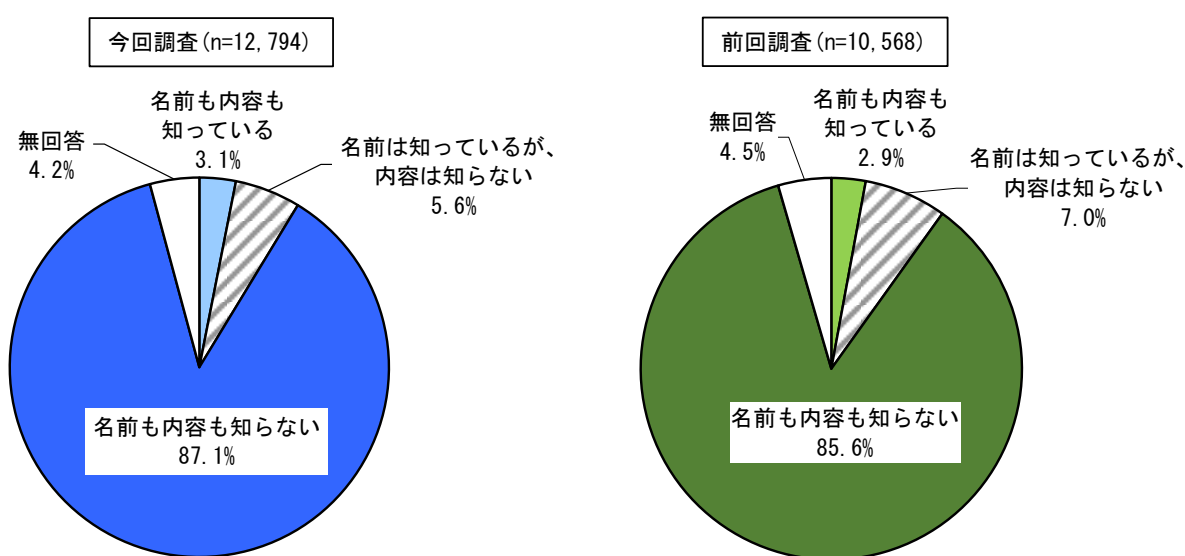
問15 人生会議（ACP）の認知度

あなたは、『人生会議（ACP）』について知っていますか。（○はひとつ）

人生会議（ACP）の認知度については、「名前も内容も知らない」が87.1%で最も多く、次いで「名前は知っているが、内容は知らない」が5.6%、「名前も内容も知っている」が3.1%となっている。

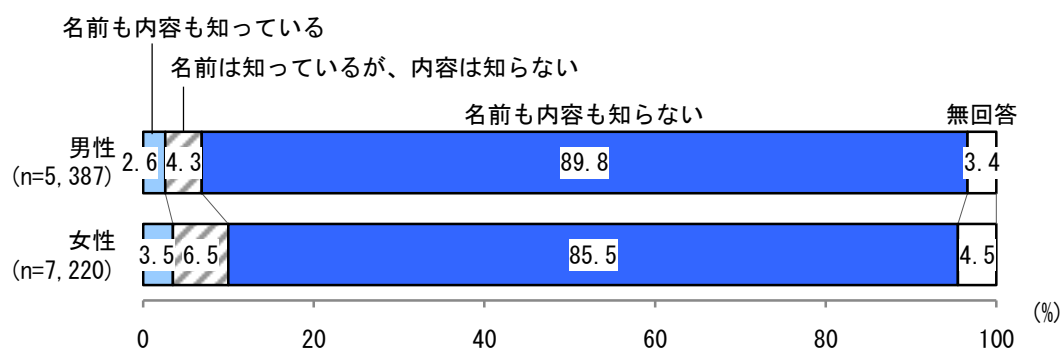
新型コロナウイルス感染症拡大前である前回調査と比較しても、項目の傾向に大きく変化はみられない。（問15）

【問15 人生会議（ACP）の認知度（経年比較）】



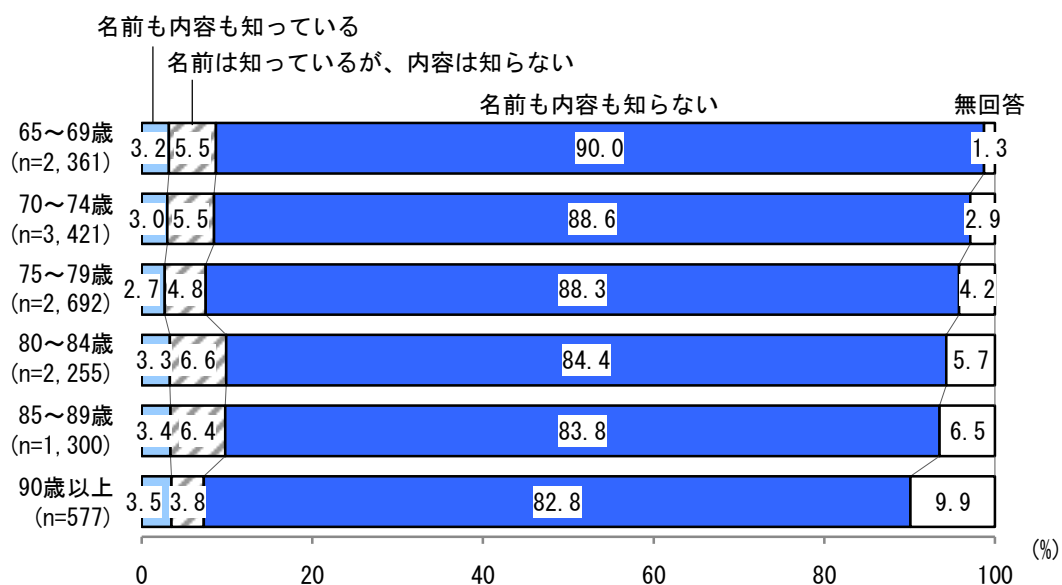
性別でみると、「名前も内容も知らない」は女性より男性のほうが高くなっている。（問15-a）

【問15-a 人生会議（ACP）の認知度（性別）】



年齢別でみると、年齢に関係なく、「名前も内容も知らない」が8～9割を占め、特に65～69歳が90.0%で最も高くなっている。(問15-b)

【問15-b 人生会議（ACP）の認知度（年齢別）】



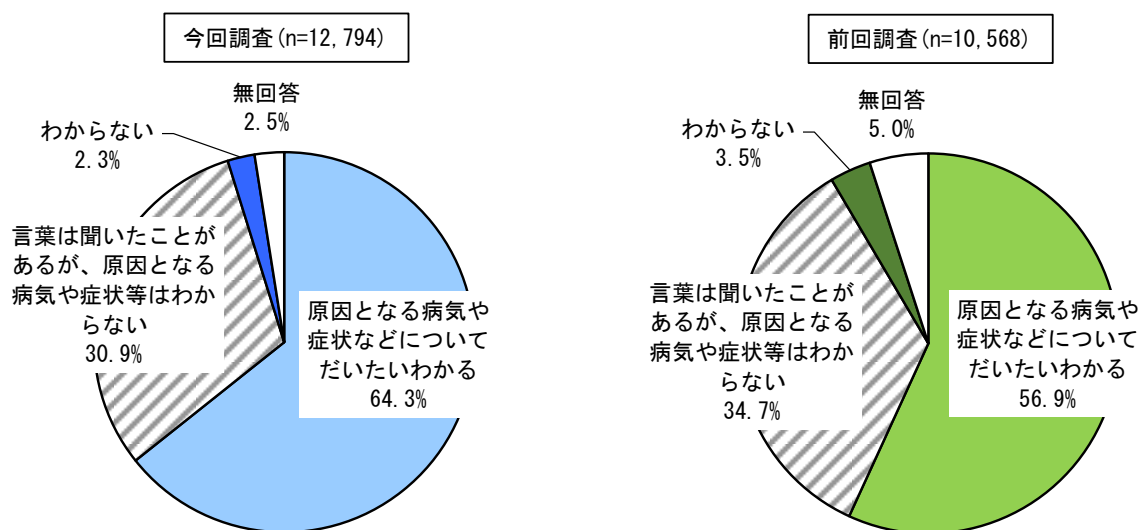
問18 認知症の認知度

あなたは「認知症」という病気を知っていますか。(○はひとつ)

認知症という病気を知っているかについては、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」が64.3%で最も多く、次いで「言葉は聞いたことがあるが、原因となる病気や症状等はわからない」が30.9%となっている。

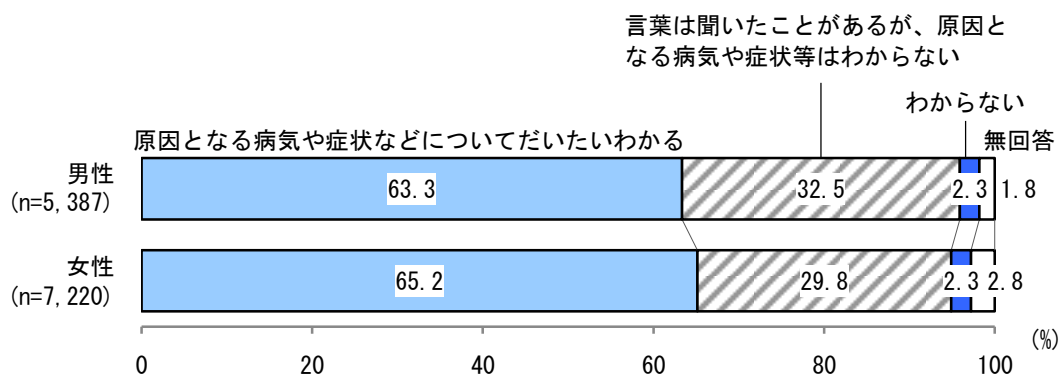
前回調査と比較すると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の割合が7.4ポイント高くなっている。(問18)

【問 18 認知症の認知度（経年比較）】



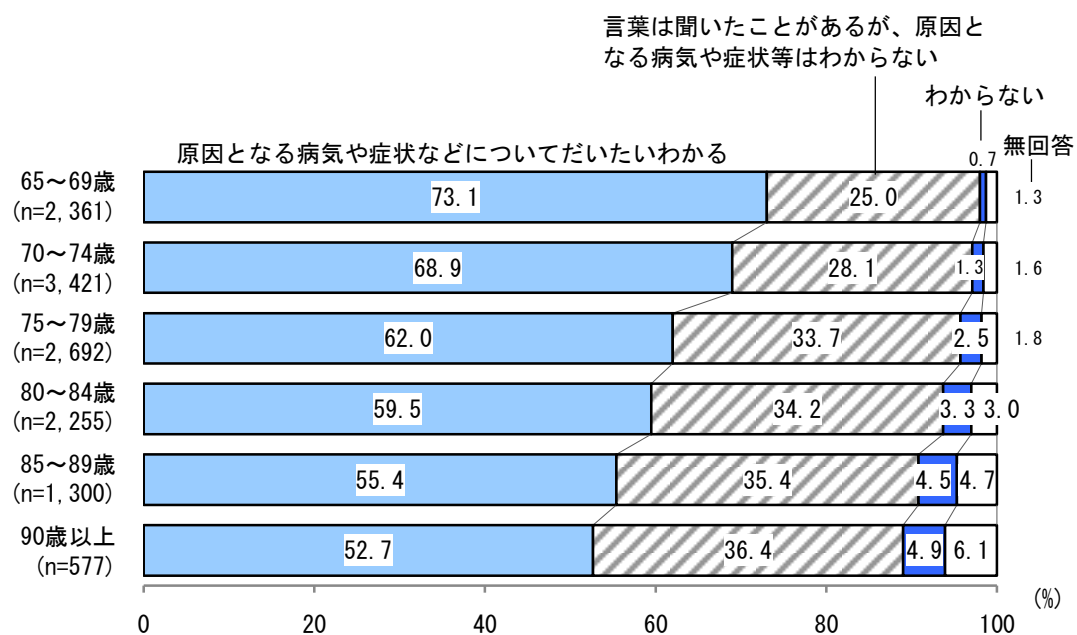
性別でみると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の回答割合は男性より女性のほうが高くなっている。(問18-a)

【問 18-a 認知症の認知度（性別）】



年齢別でみると、「原因となる病気や症状などについてだいたいわかる」の回答割合は高齢になるほど低くなっている。（問18-b）

【問 18-b 認知症の認知度（年齢別）】



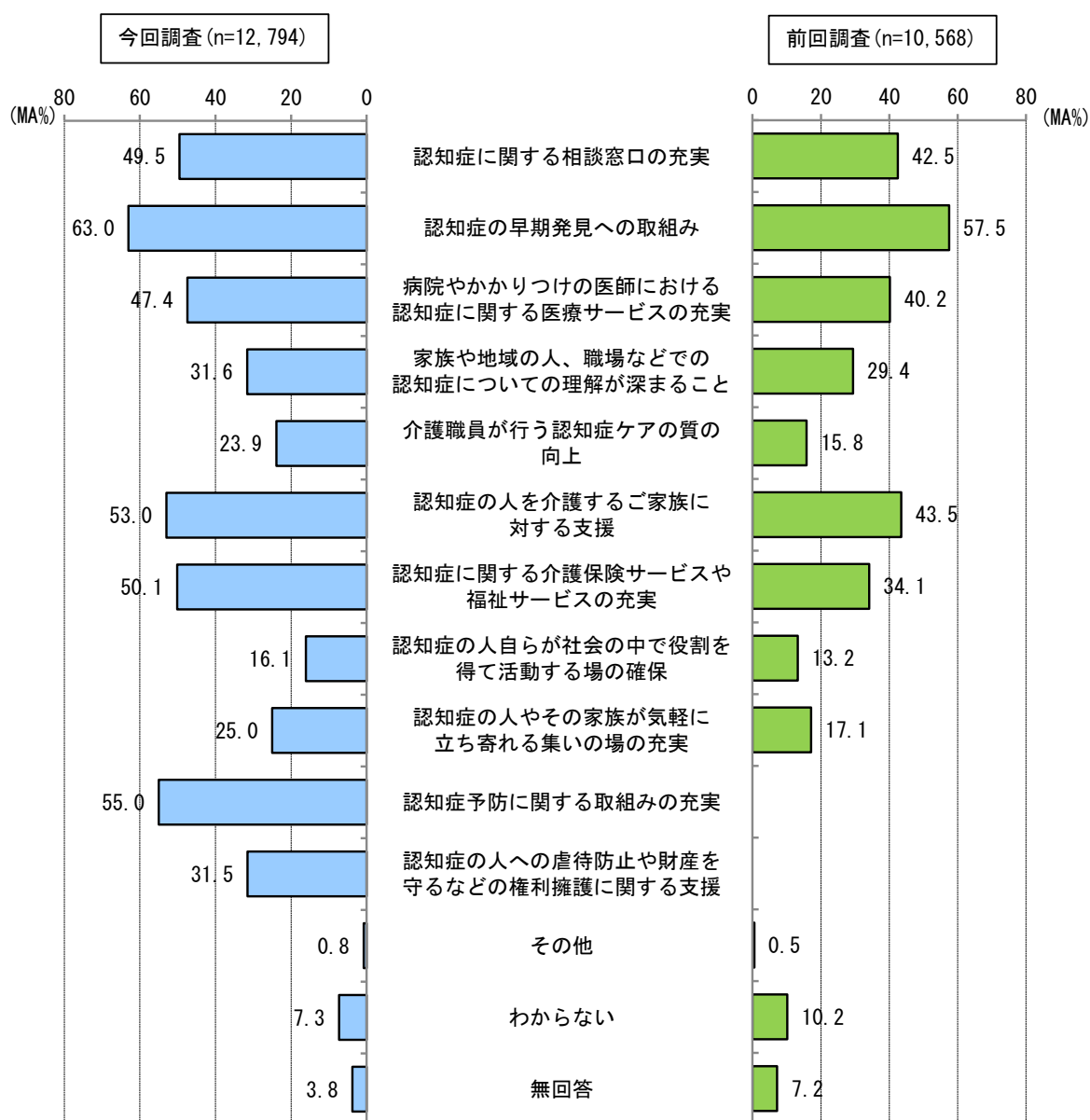
問19 認知症の人の支援

あなたは、認知症の人の支援に必要なことは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

認知症の人の支援については、「認知症の早期発見への取組み」が63.0%で最も多く、次いで「認知症予防に関する取組みの充実」が55.0%、「認知症の人を介護するご家族に対する支援」が53.0%、「認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実」が50.1%となっている。

前回調査と比較すると、「認知症に関する介護保険サービスや福祉サービスの充実」の割合が16.0ポイント、「認知症の人を介護するご家族に対する支援」の割合が9.5ポイントそれぞれ高くなっている。（問19）

【問 19 認知症の人の支援（経年比較）】

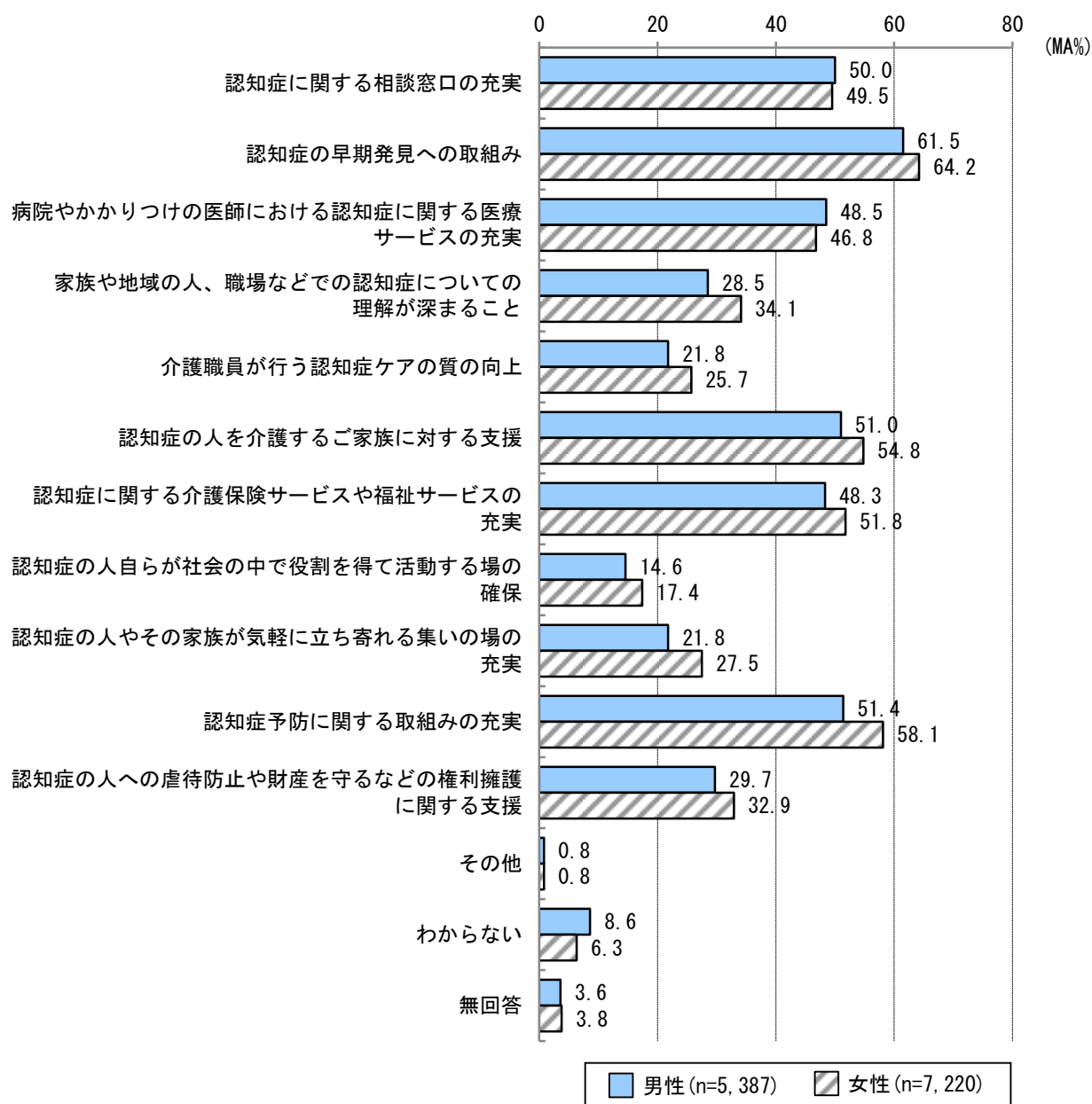


※「認知症予防に関する取組みの充実」「認知症の人への虐待防止や財産を守るなどの権利擁護に関する支援」は、今回調査の新規項目である。

※前回調査の「癒しを目的とした集いの場（認知症カフェ等）」は、今回調査では「認知症の人やその家族が気軽に立ち寄れる集いの場の充実」に変更している。

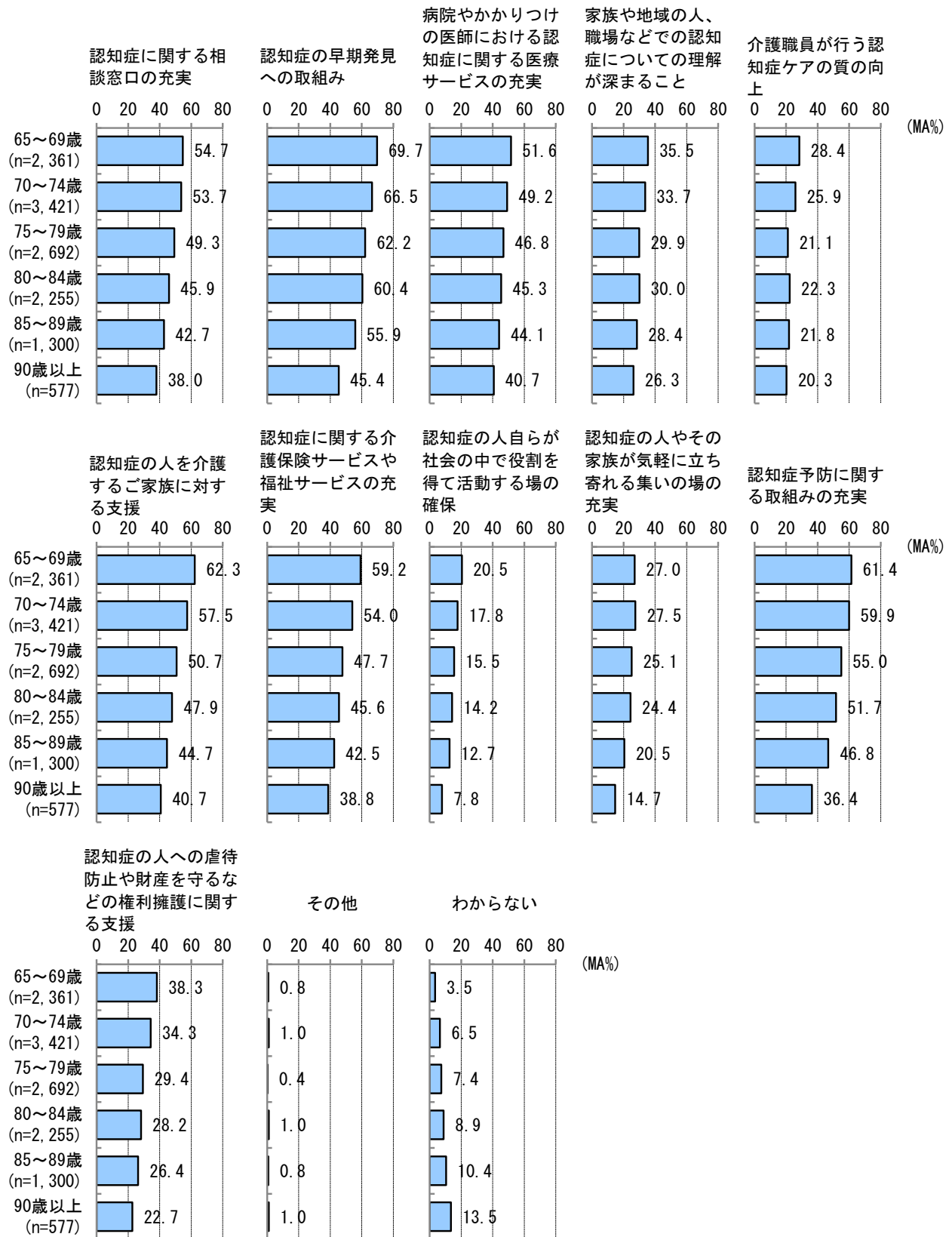
性別でみると、「認知症に関する相談窓口の充実」と「病院やかかりつけの医師における認知症に関する医療サービスの充実」以外の項目で、女性のほうが高い割合となっている。（問19-a）

【問 19-a 認知症の人の支援（性別）】



年齢別でみると、いずれの項目も高齢になるほど割合が概ね低くなっている。(問19-b)

【問 19-b 認知症の人の支援（年齢別）】



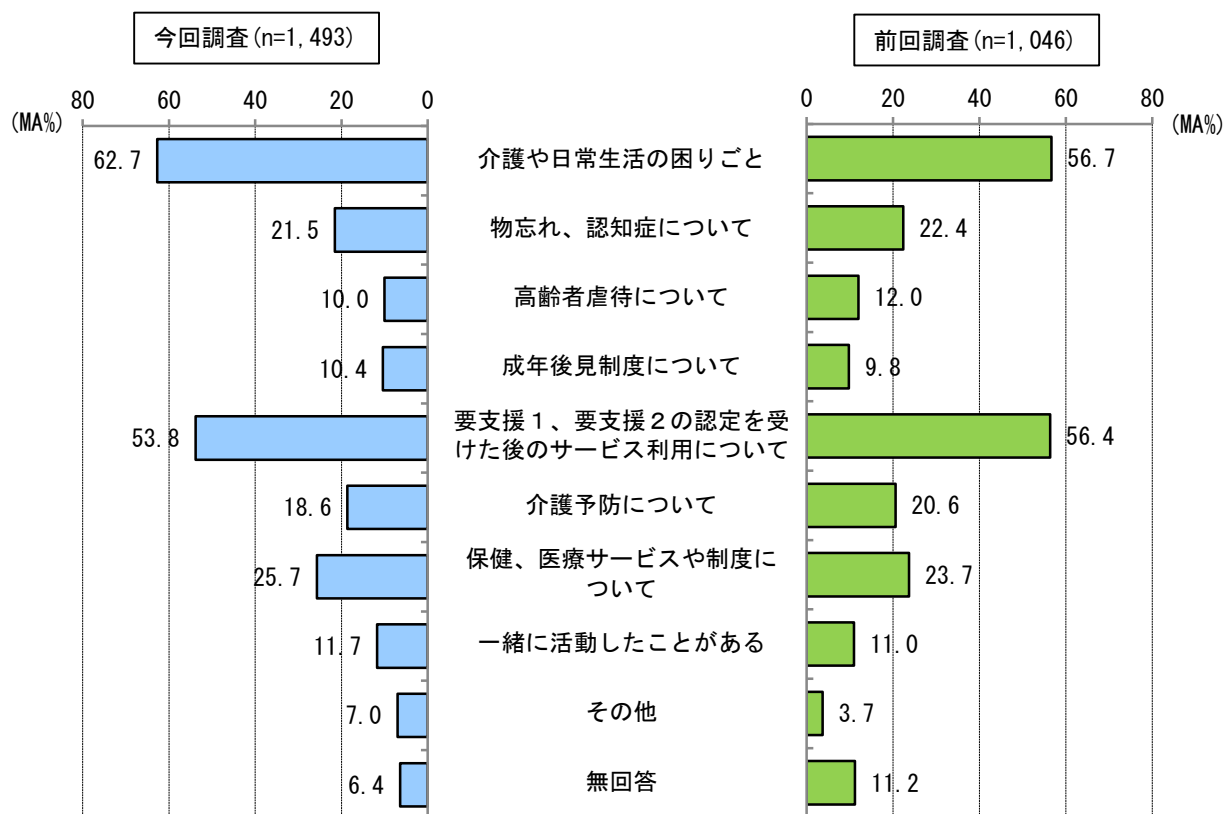
問24-2 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用目的と満足度

問24で「1 利用したことがある(知っている)」と回答された方におうかがいします。
 あなたが、地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）を利用（相談）された目的
 について、次の1～9に○をつけてください。（○はいくつでも）
 また、その時の満足度についてあてはまるものに○をつけてください。

① 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用（相談）目的

地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ランチ）を利用したことがあると回答した人
 に、利用（相談）した目的をたずねると、「介護や日常生活の困りごと」が62.7%で最も多く、
 次いで「要支援1、要支援2の認定を受けた後のサービス利用について」が53.8%となってい
 る。前回調査と比較すると、「介護や日常生活の困りごと」の割合が6.0ポイント高くなってい
 る。（問24-2①）

【問24-2① 地域包括支援センター・総合相談窓口（ランチ）の利用（相談）目的（経年比較）】

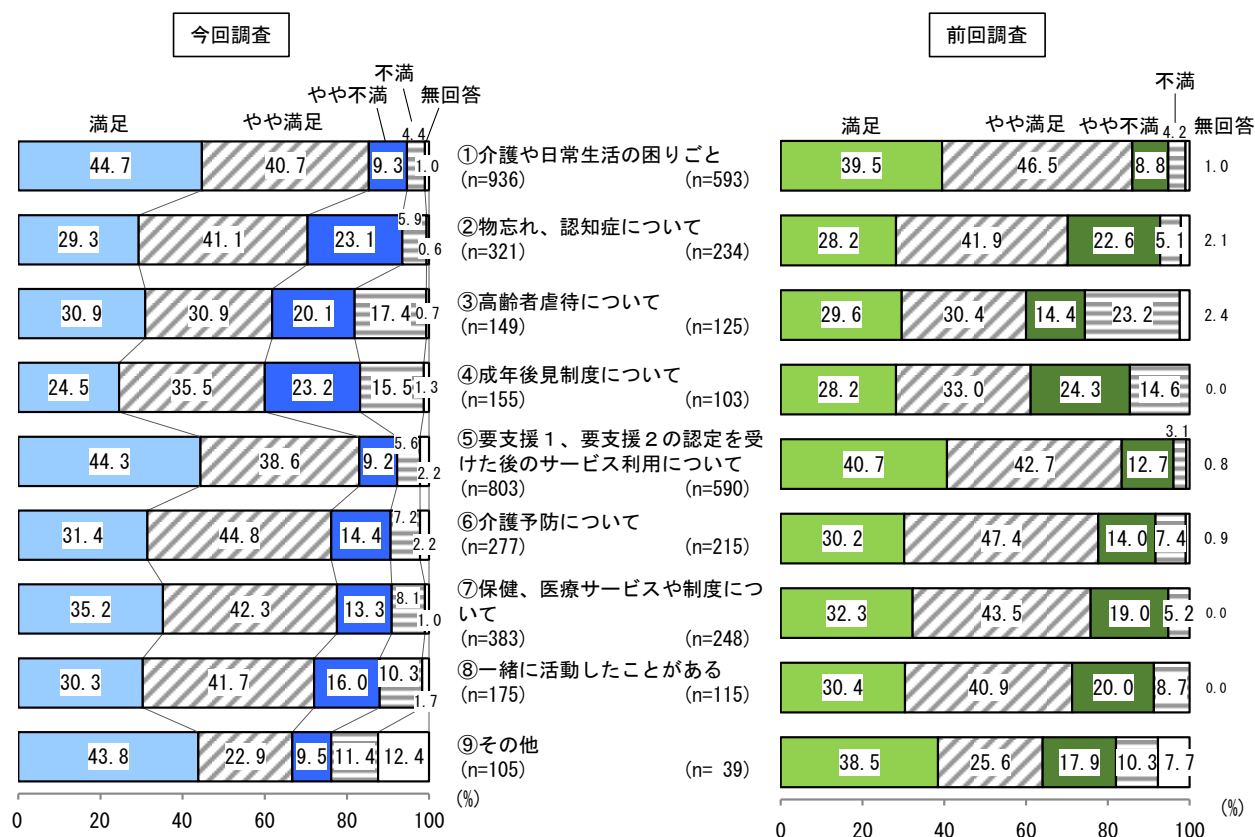


② 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の満足度

地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）を利用したことがあると回答した人に、利用（相談）した目的別に満足度をたずねると、“①介護や日常生活の困りごと”（85.4%）、“⑤要支援１、要支援２の認定を受けた後のサービス利用について”（82.9%）の『満足度』（「満足」と「やや満足」をあわせた割合）が高くなっている。

前回調査と比較しても、『満足度』は傾向に大きく変化はみられない。（問24-2②）

【問 24-2② 地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）の満足度（経年比較）】



問30 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向

次の施設や事業について、あなたの利用状況や意向をお答えください。

(○はそれぞれひとつずつ)

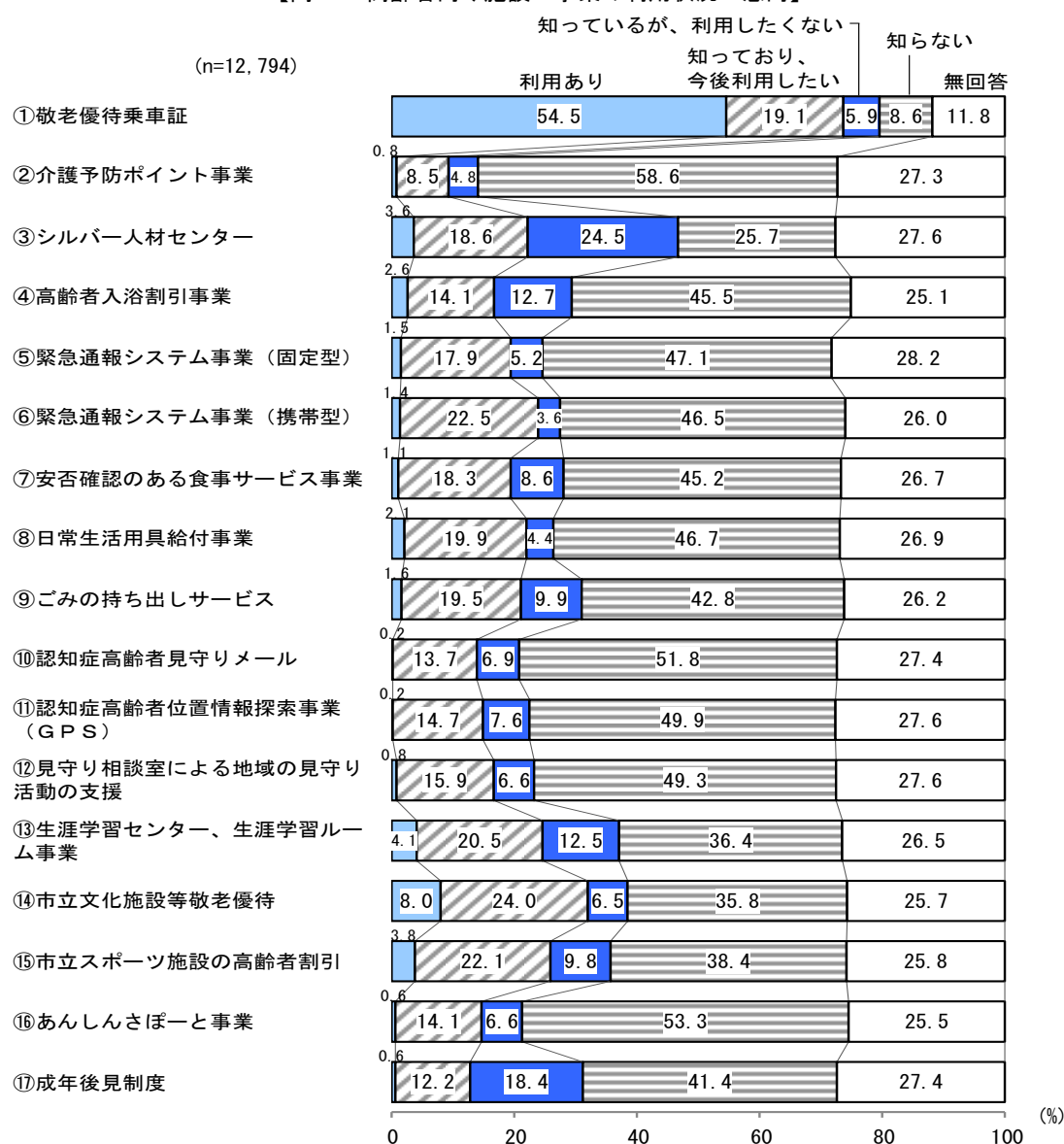
「利用あり」の割合が最も高い事業は、「①敬老優待乗車証」(54.5%)で、半数以上の高齢者が利用しています。これ以外の事業で利用されている割合は1割未満と低く、「知らない」が多くなっています。

また、「知っており、今後利用したい」の割合が高い事業等は、「⑭市立文化施設等敬老優待」(24.0%)、「⑥緊急通報システム事業(携帯型)」(22.5%)などです。

「②介護予防ポイント事業」をはじめ、「⑩認知症高齢者見守りメール」や「⑪認知症高齢者位置情報探索事業(GPS)」⑯あんしんさぽーと事業は、利用者が限定されるため「知らない」割合が高くなると考えられます。

利用度や認知度が低い事業については、事業の対象となる高齢者(介護者)に当該事業に関する情報が的確に伝わるよう情報の提供方法を工夫していく必要があると考えます。(問30)

【問 30 高齢者向け施設・事業の利用状況・意向】



令和4年度 高齢者実態調査報告書

《介護保険サービス利用者・未利用者調査・介護者調査》

認知症関連抜粋

大 阪 市

目 次

介護保険サービス利用者調査	15
問 34 認知症状の有無	15
問 34-1 認知症に関する相談窓口の認知度	17
問 34-2 知っている認知症に関する相談窓口	19
問 34-3 認知症についての相談先	20
介護保険サービス未利用者調査	21
問 31 認知症状の有無	21
問 31-1 認知症に関する相談窓口の認知度	23
問 31-2 知っている認知症に関する相談窓口	25
問 31-3 認知症についての相談先	26
介護者調査	27
問 43[40] 本人の認知症の程度	27

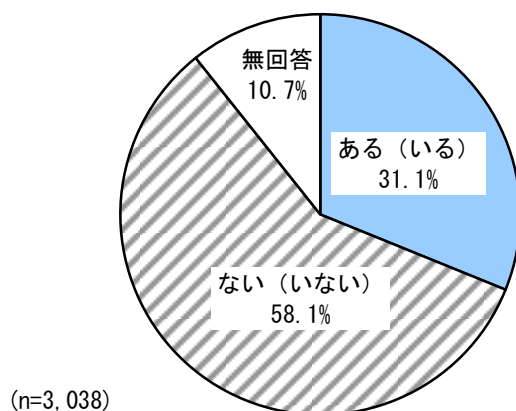
介護保険サービス利用者調査

問34 認知症状の有無

認知症の症状（物忘れの悪化など認知症の疑いも含む）がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか。（○はひとつ）

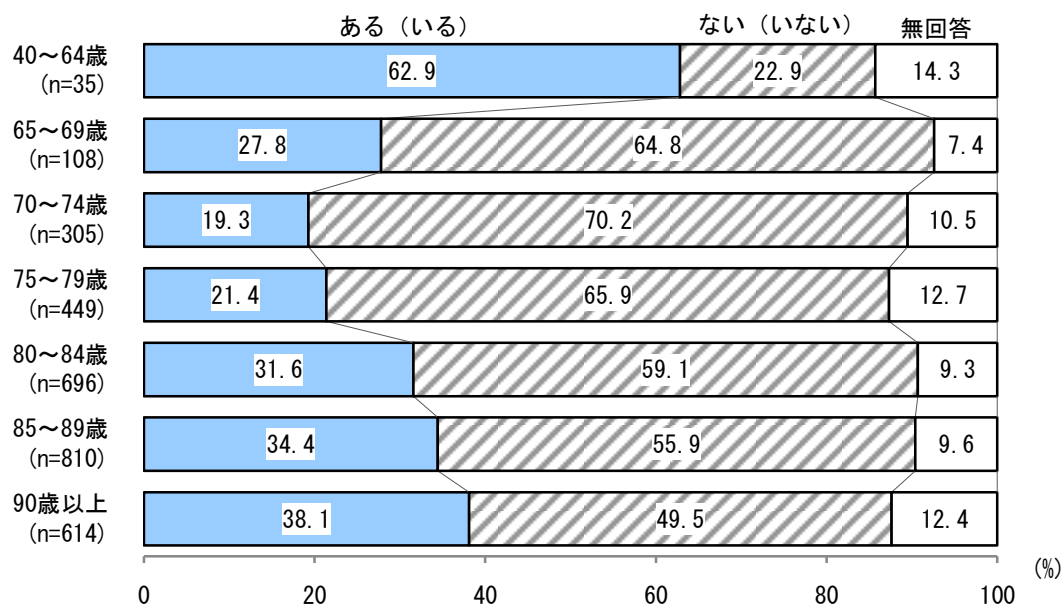
認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人の有無については、「ある（いる）」が31.1%、「ない（いない）」が58.1%となっている。（図34）

【図 34 認知症状の有無】



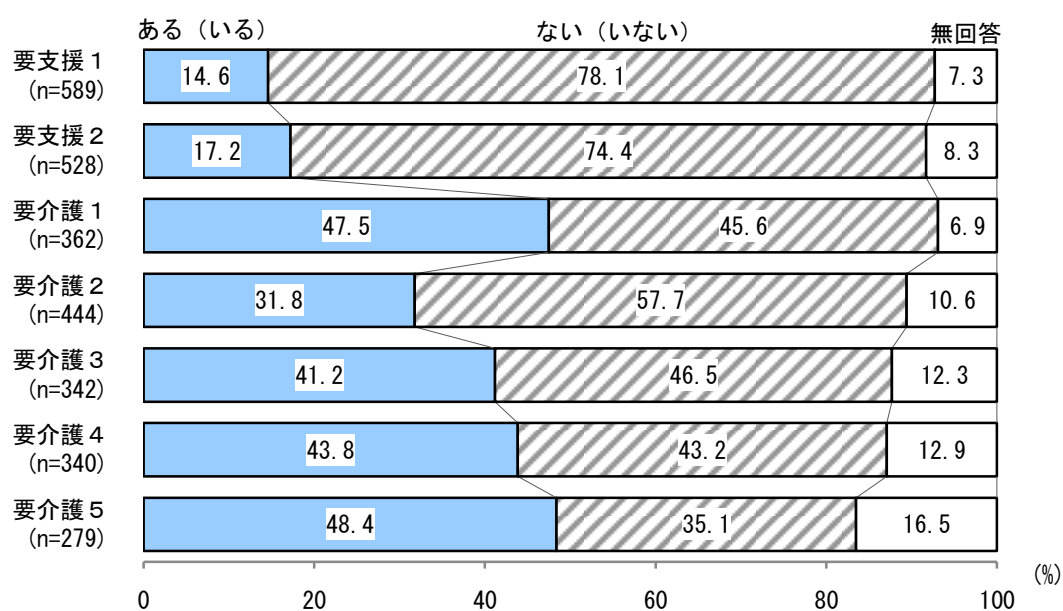
本人の年齢別でみると、「ある（いる）」は40～64歳が62.9%で最も高く、次いで90歳以上が38.1%となっている。（図34-a）

【図 34-a 認知症状の有無（本人の年齢別）】



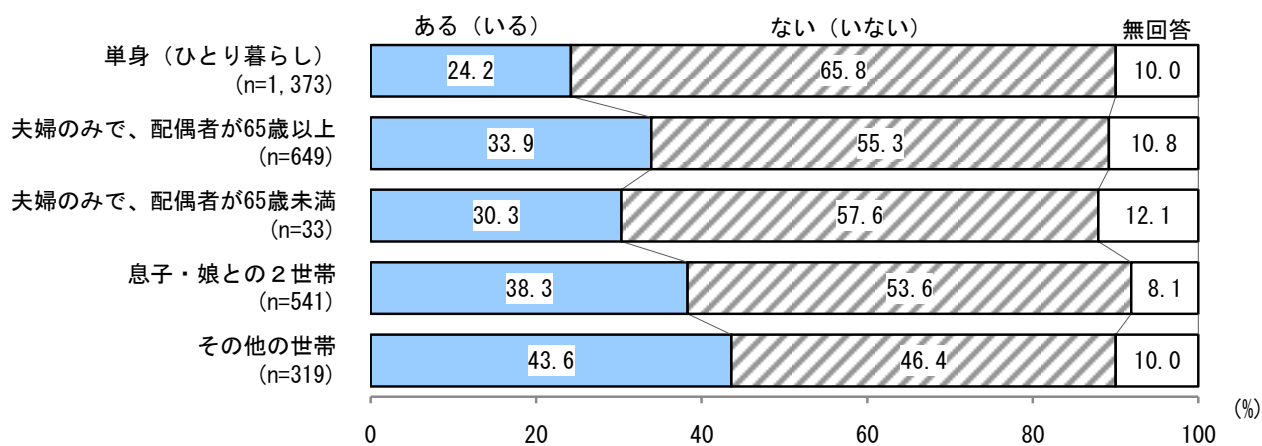
要介護度別でみると、「ある（いる）」は要介護５が48.4%で最も高く、次いで要介護Ⅰが47.5%となっている。（図34-b）

【図 34-b 認知症状の有無（要介護度別）】



世帯状況別でみると、「ある（いる）」はその他の世帯が43.6%で最も高く、次いで息子・娘との２世帯が38.3%となっている。（図34-c）

【図 34-c 認知症状の有無（世帯状況別）】

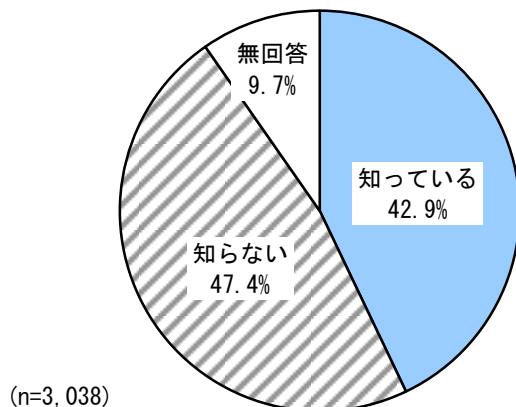


問34-1 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○はひとつ)

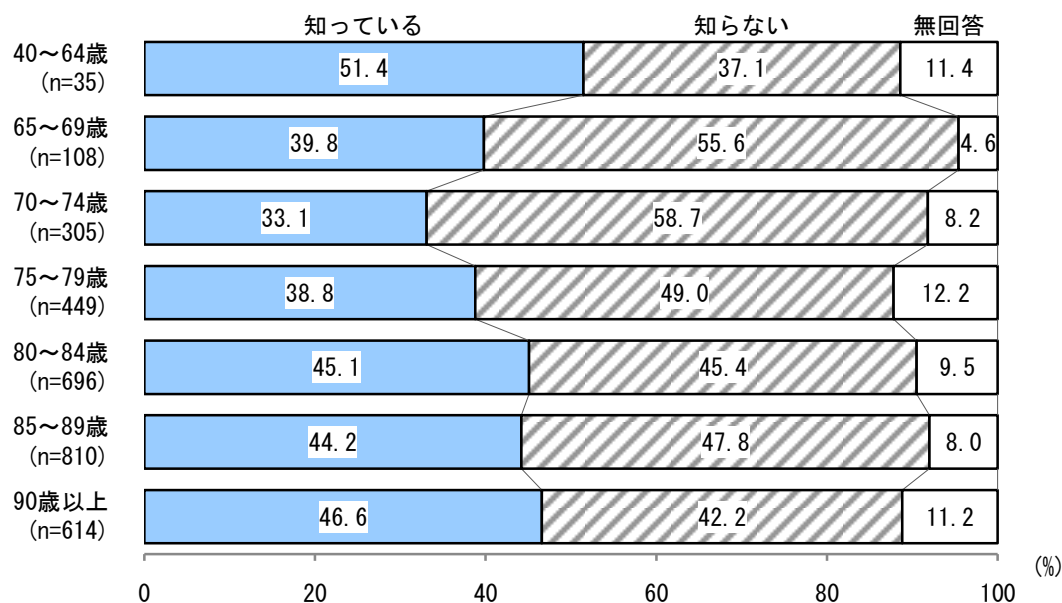
認知症に関する相談窓口の認知度については、「知っている」が42.9%、「知らない」が47.4%となっている。(図34-1)

【図 34-1 認知症に関する相談窓口の認知度】



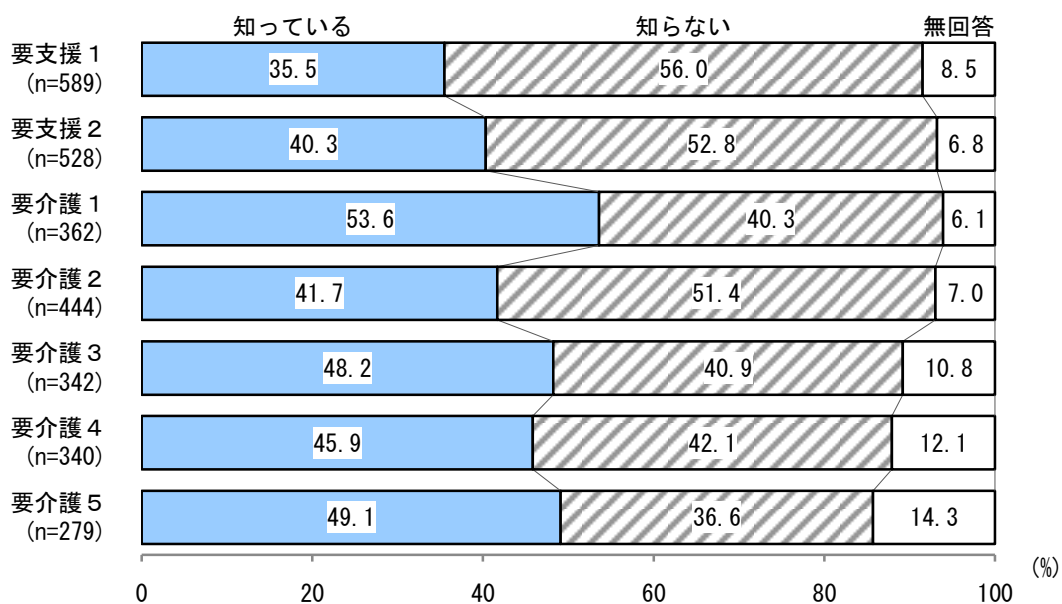
本人の年齢別でみると、「知っている」は40～64歳が51.4%で最も高く、次いで90歳以上が46.6%、80～84歳が45.1%となっている。(図34-1-a)

【図 34-1-a 認知症に関する相談窓口の認知度（本人の年齢別）】



要介護度別でみると、「知っている」は要介護Ⅰが53.6%で最も高く、次いで要介護Ⅴが49.1%、要介護Ⅲが48.2%となっている。（図34-1-b）

【図 34-1-b 認知症に関する相談窓口の認知度（要介護度別）】



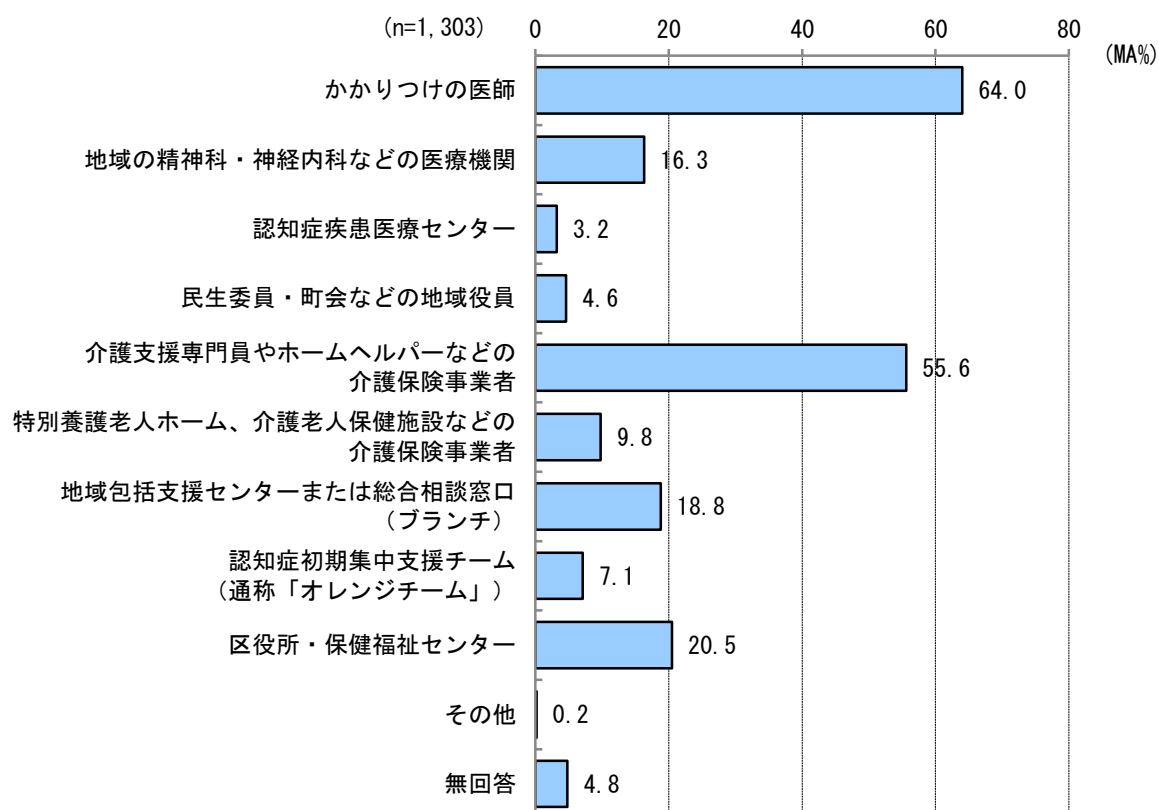
問34-2 知っている認知症に関する相談窓口

問34-1で「1 はい」と回答された方におうかがいします。

あなたが認知症に関する相談窓口として知っているところはどこですか。(〇はいくつでも)

認知症に関する相談窓口を知っていると回答した人に、知っている相談窓口についてたずねると、「かかりつけの医師」が64.0%で最も多く、次いで「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」が55.6%、「区役所・保健福祉センター」が20.5%となっている。(図34-2)

【図 34-2 知っている認知症に関する相談窓口】

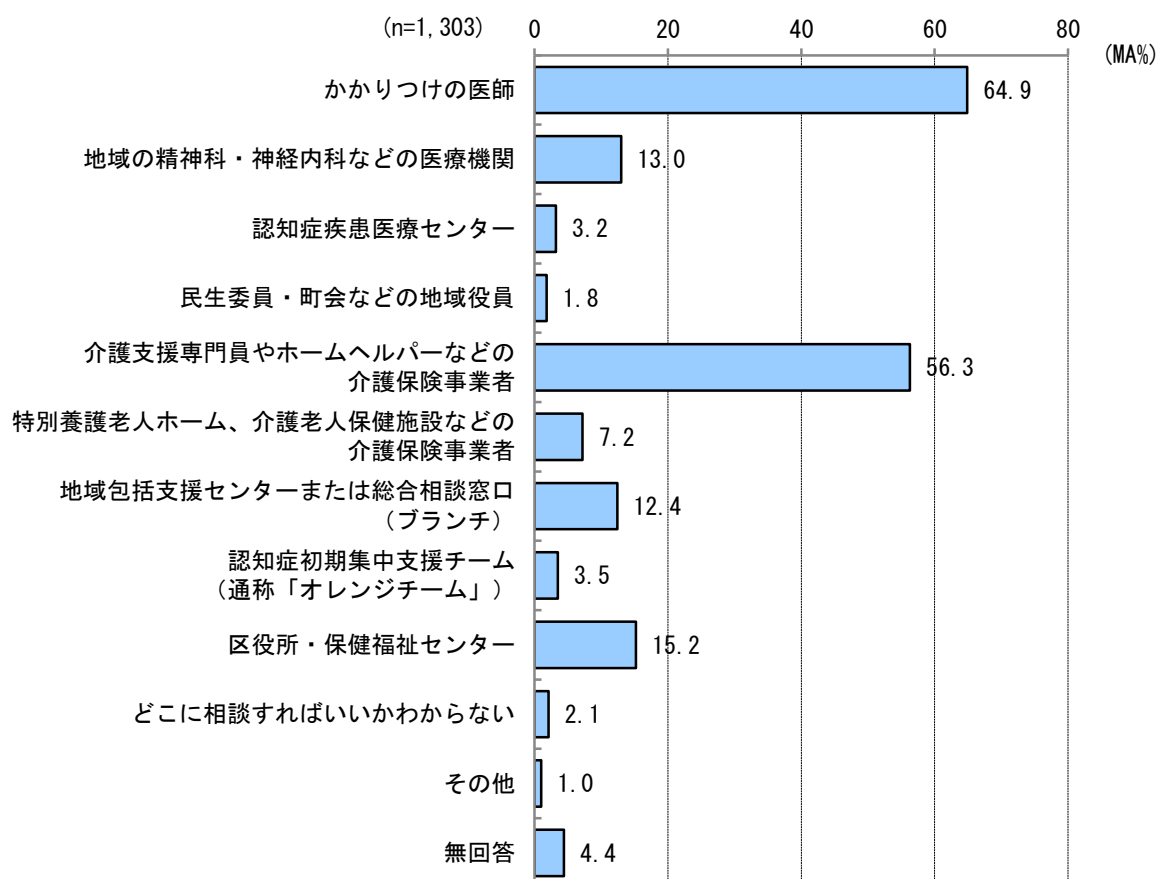


問34-3 認知症についての相談先

あなたは、あなた又はあなたのご家族が認知症について不安に感じるときは、どちらに相談されますか。(〇はいくつでも)

認知症の不安に対する相談先については、「かかりつけの医師」が64.9%で最も多く、次いで「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」が56.3%、「区役所・保健福祉センター」が15.2%となっている。(図34-3)

【図 34-3 認知症についての相談先】



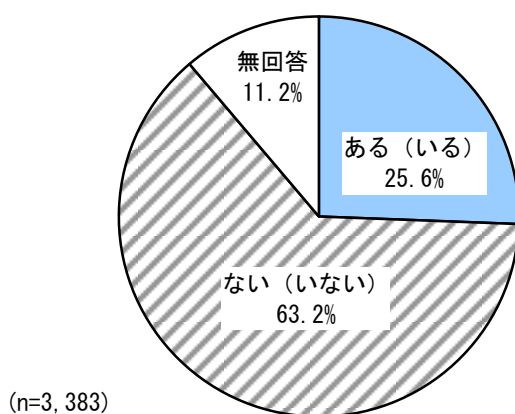
介護保険サービス未利用者調査

問31 認知症状の有無

認知症の症状（物忘れの悪化など認知症の疑いも含む）がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか。（○はひとつ）

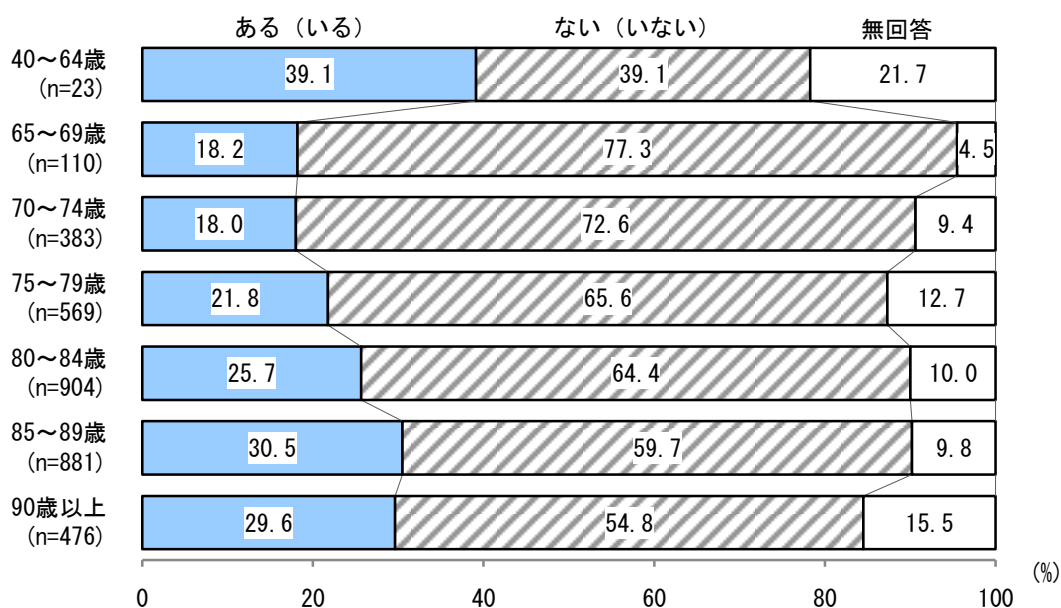
認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人の有無については、「ある（いる）」が25.6%、「ない（いない）」が63.2%となっている。（図31）

【図 31 認知症状の有無】



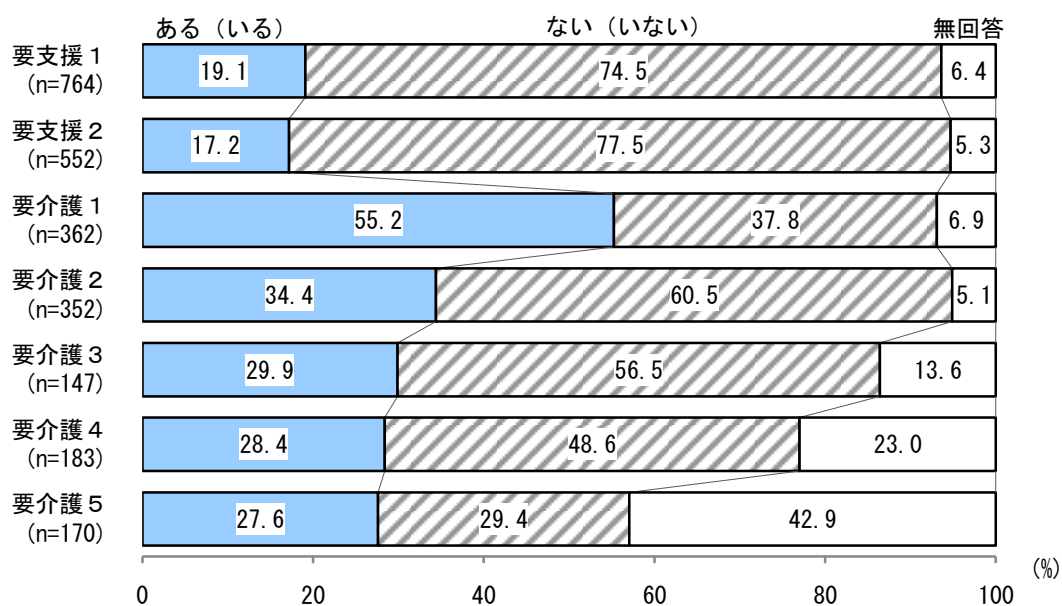
本人の年齢別でみると、「ある（いる）」は40～64歳が39.1%で最も高く、次いで85～89歳が30.5%となっている。（図31-a）

【図 31-a 認知症状の有無（本人の年齢別）】



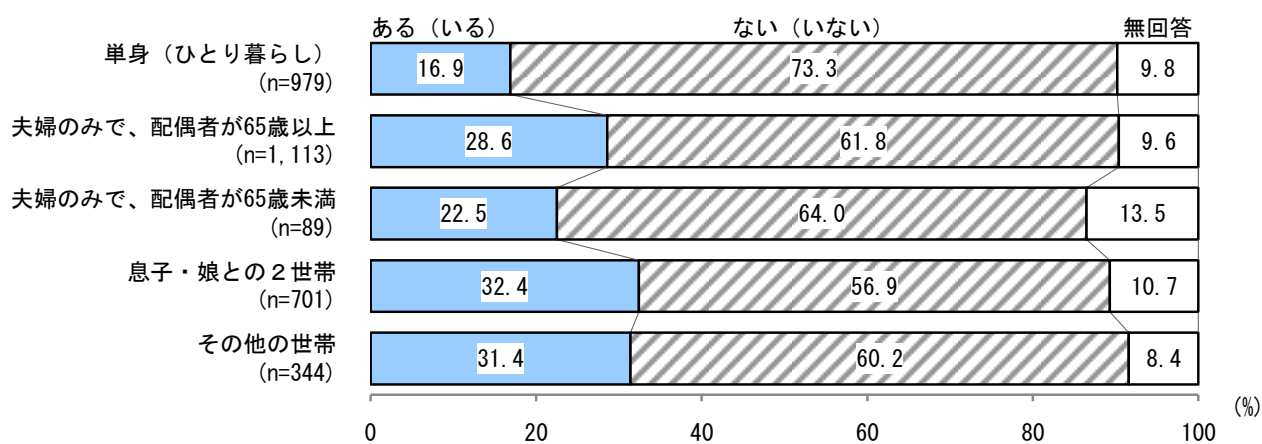
要介護度別でみると、「ある（いる）」の割合は要介護１が55.2%で最も高く、次いで要介護２が34.4%となっている。（図31-b）

【図 31-b 認知症状の有無（要介護度別）】



世帯状況別でみると、「ある（いる）」の割合は息子・娘との２世帯が32.4%で最も高く、次いでその他の世帯が31.4%となっている。（図31-c）

【図 31-c 認知症状の有無（世帯状況別）】

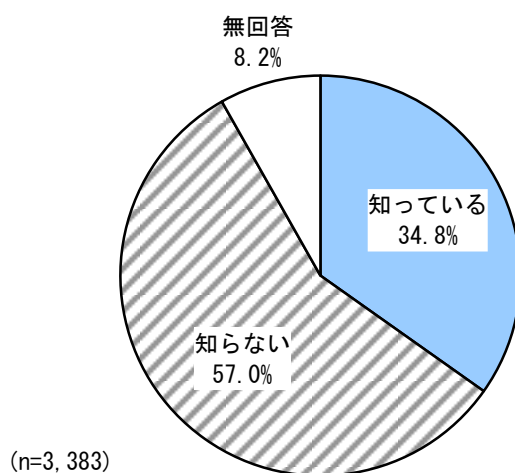


問31-1 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っていますか。(○はひとつ)

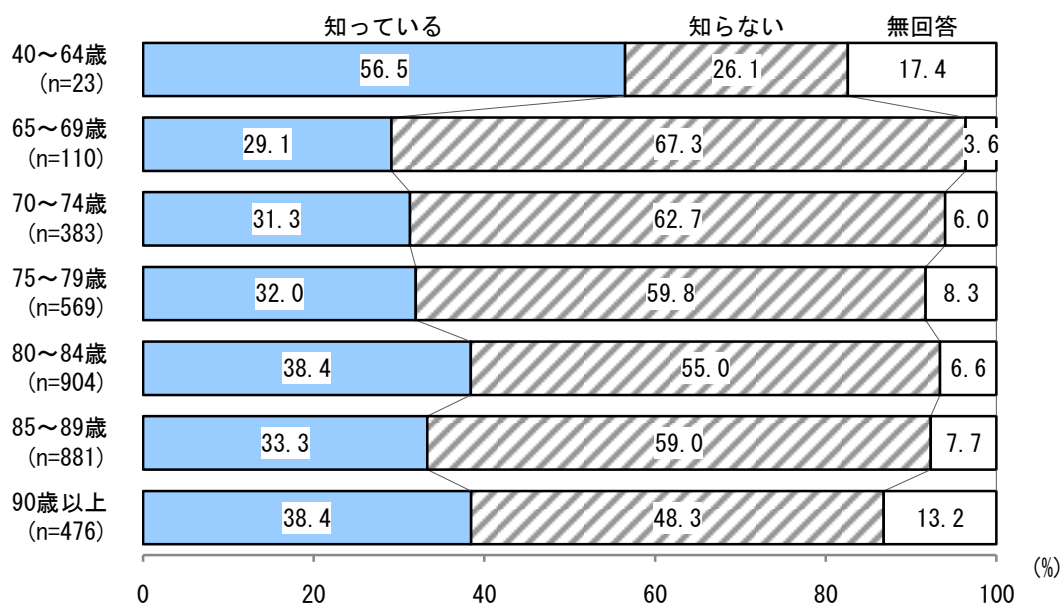
認知症に関する相談窓口の認知度については、「知っている」が34.8%、「知らない」が57.0%となっている。(図31-1)

【図 31-1 認知症に関する相談窓口の認知度】



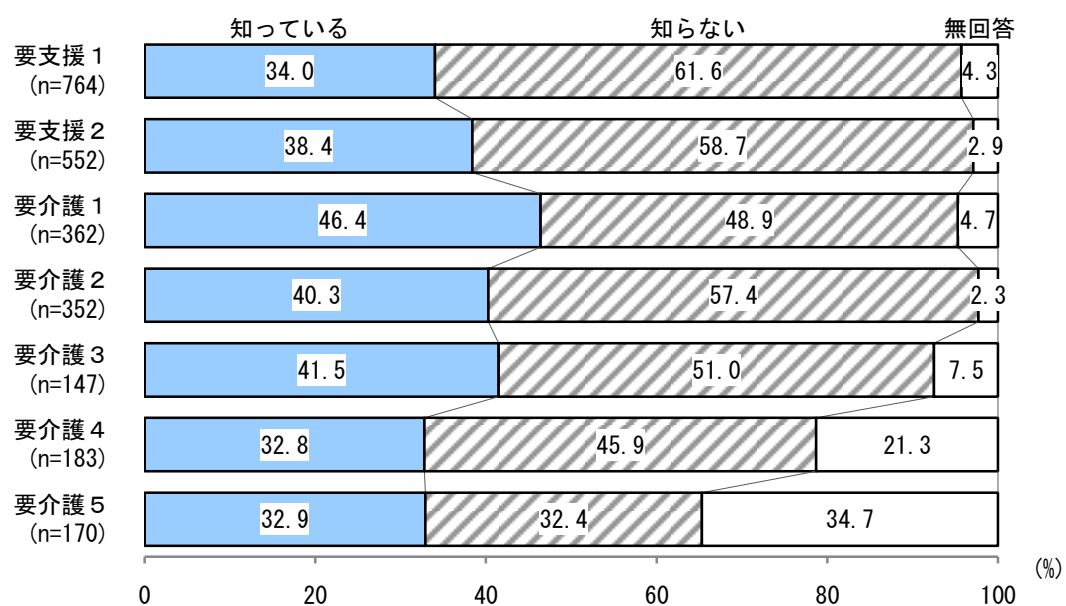
本人の年齢別でみると、「知っている」は40～64歳が56.5%で最も高く、次いで80～84歳、90歳以上がともに38.4%となっている。(図31-1-a)

【図 31-1-a 認知症に関する相談窓口の認知度 (本人の年齢別)】



要介護度別でみると、「知っている」は要介護Ⅰが46.4%で最も高く、次いで要介護Ⅲが41.5%、要介護Ⅱが40.3%となっている。（図31-1-b）

【図 31-1-b 認知症に関する相談窓口の認知度（要介護度別）】



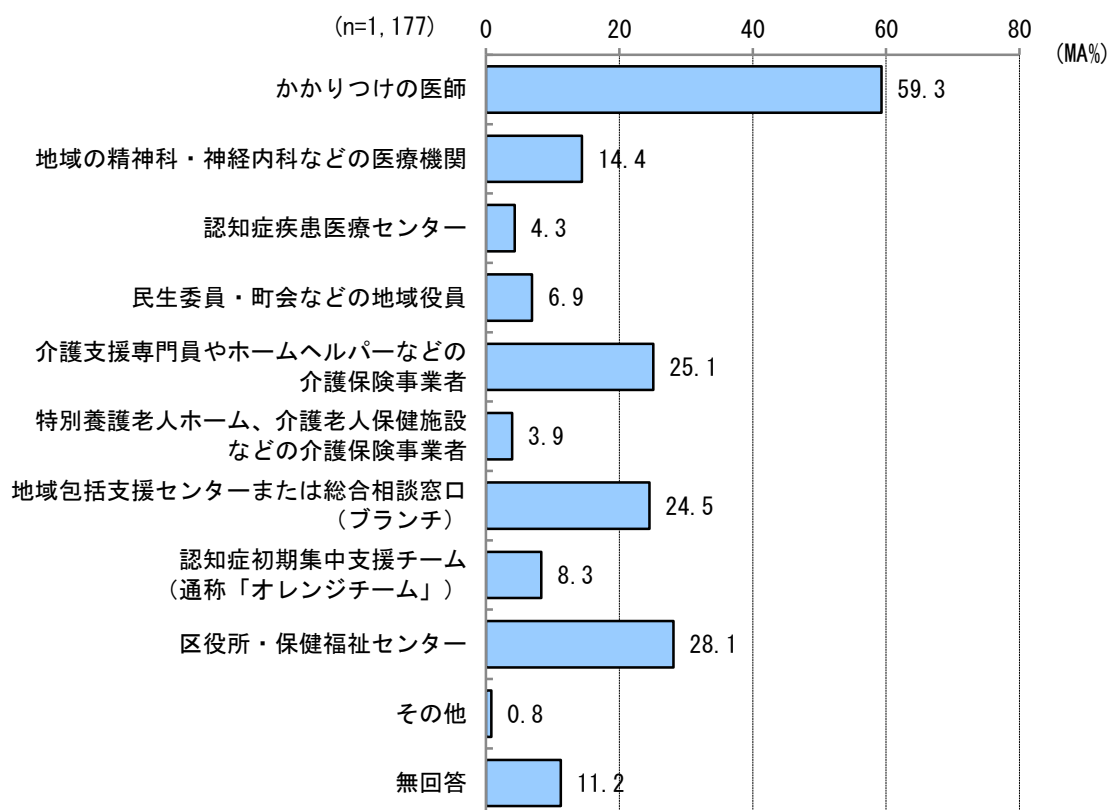
問31-2 知っている認知症に関する相談窓口

問31-1で「1 はい」と回答された方におうかがいします。

あなたが認知症に関する相談窓口として知っているところはどこですか。(〇はいくつでも)

認知症に関する相談窓口を知っていると回答した人に、知っている相談窓口についてたずねると、「かかりつけの医師」が59.3%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」が28.1%、「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」が25.1%となっている。(図31-2)

【図 31-2 知っている認知症に関する相談窓口】

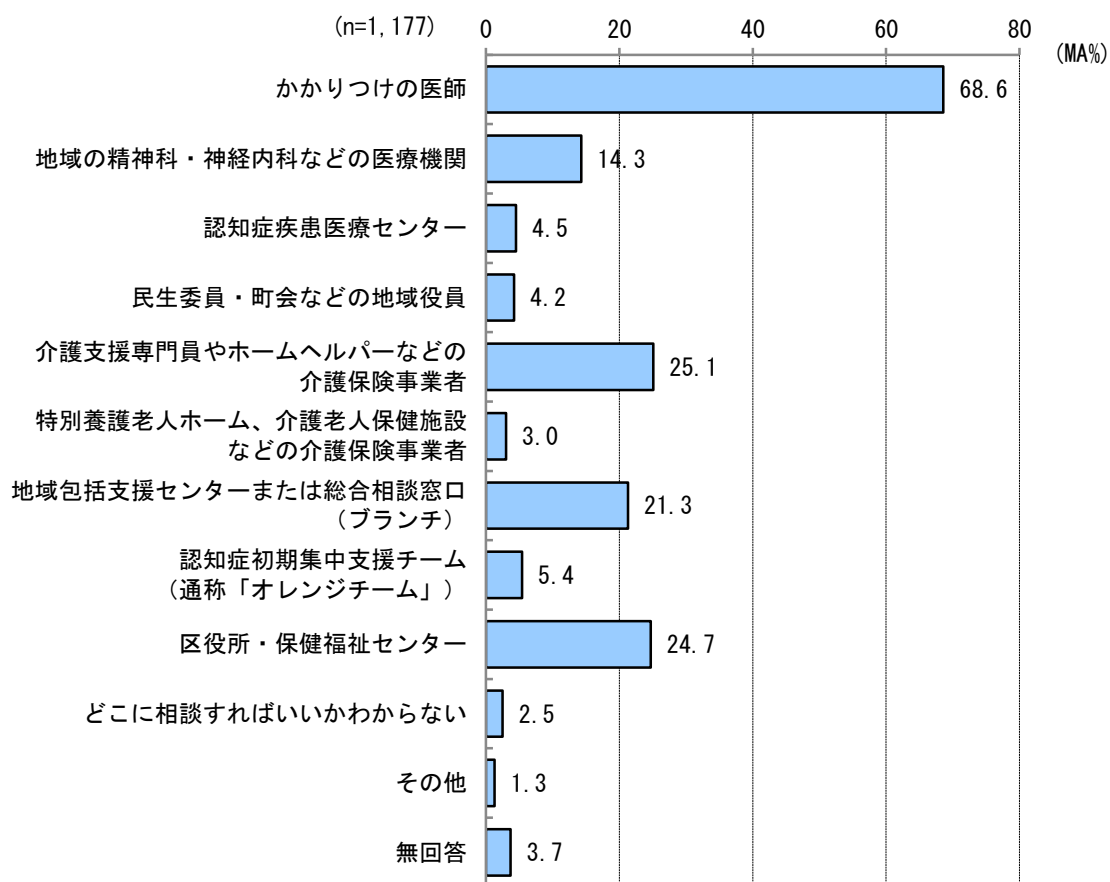


問31-3 認知症についての相談先

あなたは、あなた又はあなたのご家族が認知症について不安に感じるときは、どちらに相談されますか。(〇はいくつでも)

認知症についての相談先については、「かかりつけの医師」が68.6%で最も多く、次いで「介護支援専門員やホームヘルパーなどの介護保険事業者」が25.1%、「区役所・保健福祉センター」が24.7%となっている。(図31-3)

【図 31-3 認知症についての相談先】



介護者調査

問43[40] 本人の認知症の程度

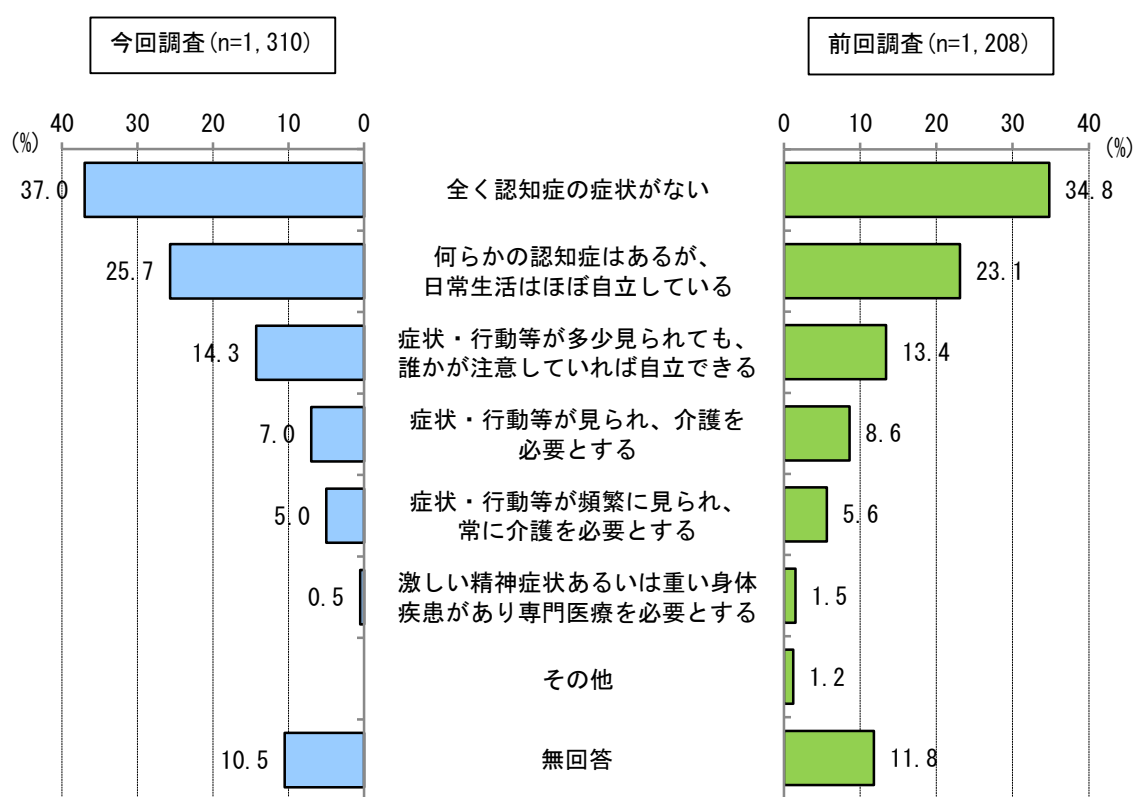
ご本人の認知症の程度について、もっとも近いものに○をつけてください。(○はひとつ)

サービス利用者本人の認知症の程度については、「全く認知症の症状がない」が37.0%で最も多く、次いで「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が25.7%、「症状・行動等が多少見られても、誰かが注意していれば自立できる」が14.3%となっている。

前回調査と比較すると、上記3項目が多い傾向は変わらない。(A図43[40])

< A. サービス利用者 >

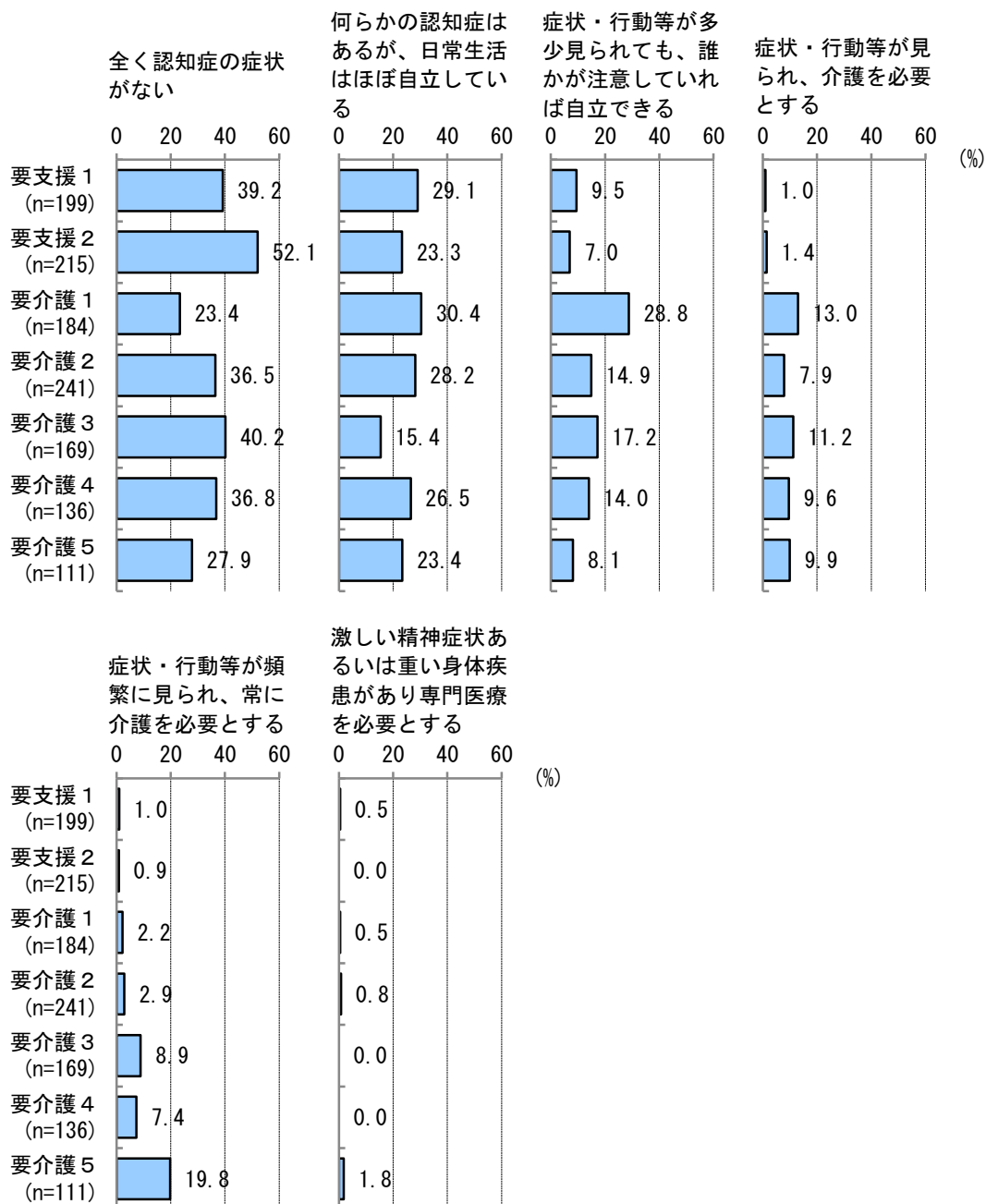
【A 図 43[40] 本人の認知症の程度（経年比較）】



※前回調査の「その他」は、今回調査では設けていない。

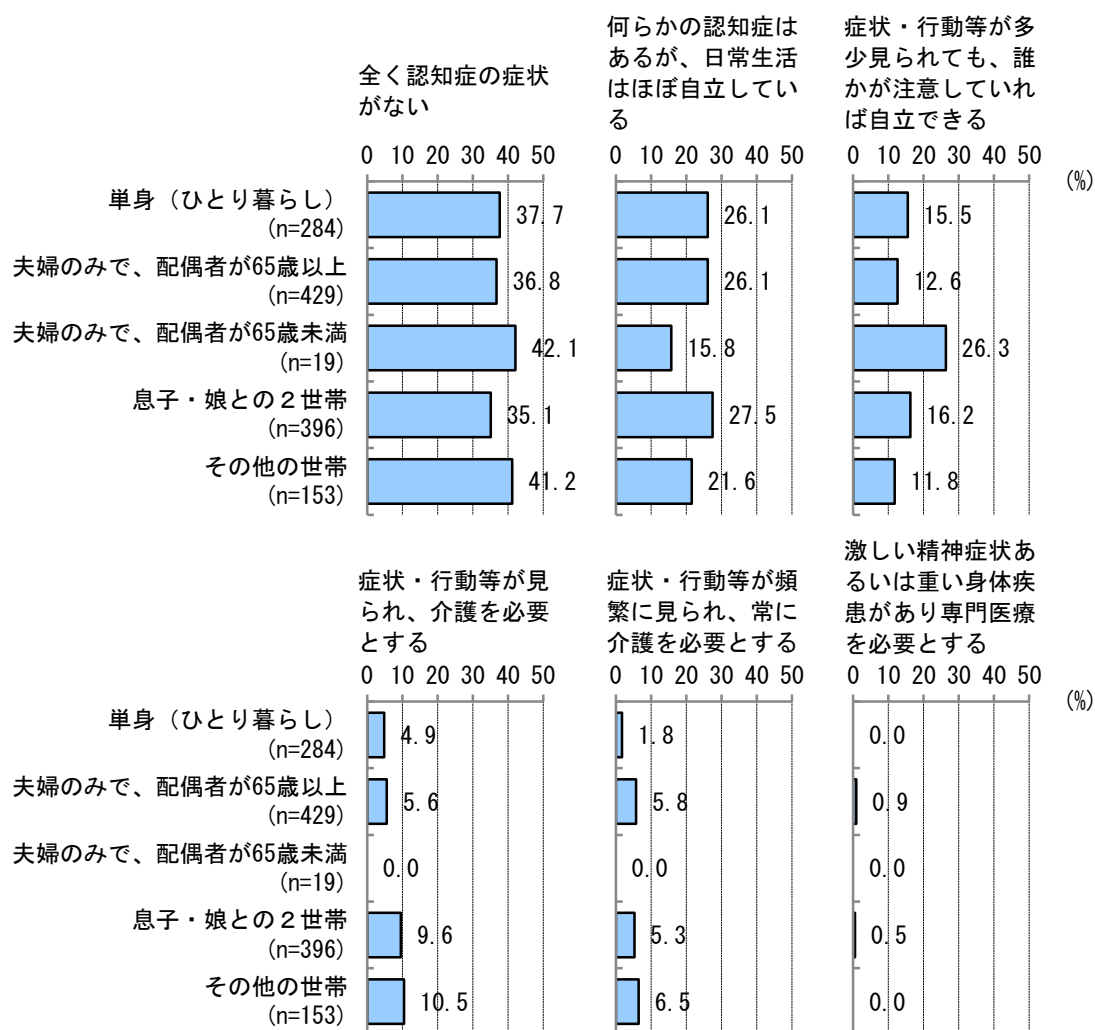
本人の要介護度別でみると、要支援１・２と要介護２～５は「全く認知症を有しない」が最も多くなっている。要介護１では「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が最も多くなっており、「症状・行動等が多少見られても、誰かが注意していれば自立できる」や「症状・行動等が多少見られても、誰かが注意していれば自立できる」、「症状・行動等が見られ、介護を必要とする」も他の要介護度より高くなっている。（A図43[40]-a）

【A 図 43[40]-a 本人の認知症の程度（本人の要介護度別）】



世帯状況別でみると、世帯の状況にかかわらず「全く認知症の症状がない」が最も多くなっている。(A図43[40]-b)

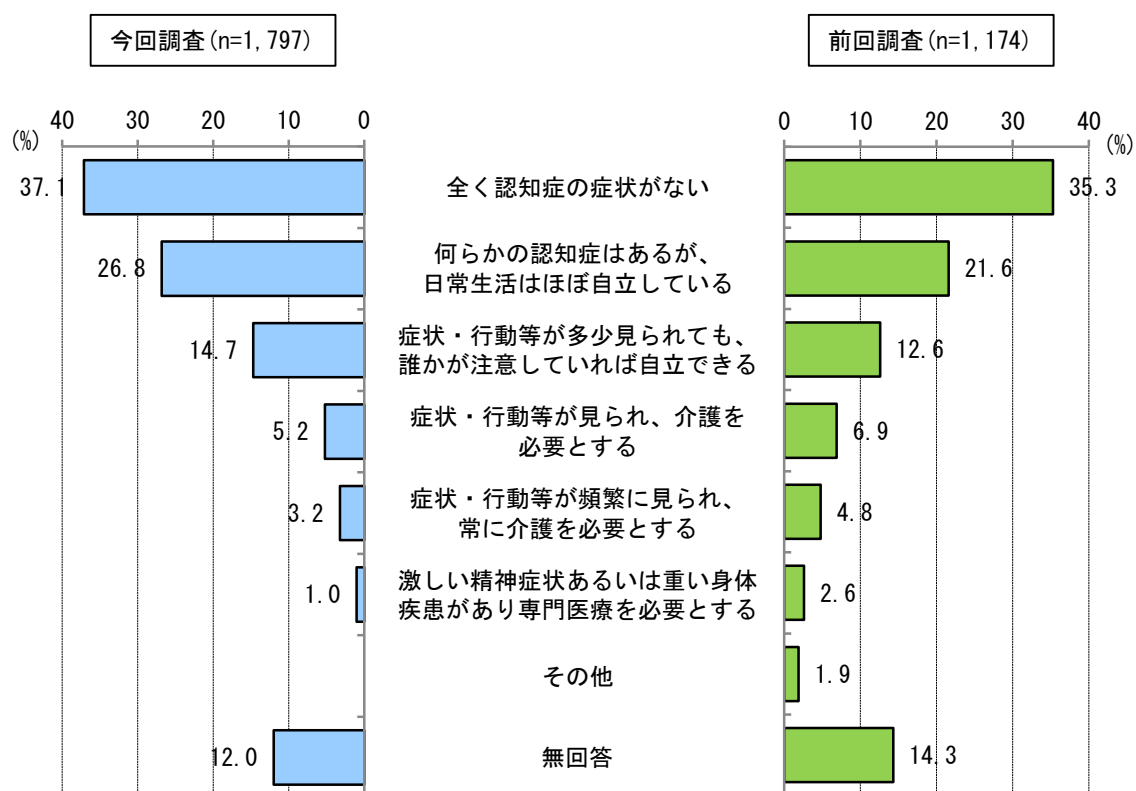
【A 図 43[40]-b 本人の認知症の程度（世帯状況別）】



サービス未利用者本人の認知症の程度については、「全く認知症の症状がない」が37.1%で最も多く、次いで「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が26.8%、「症状・行動等が多少見られても、誰かが注意していれば自立できる」が14.7%となっている。前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(B図43[40])

< B. サービス未利用者 >

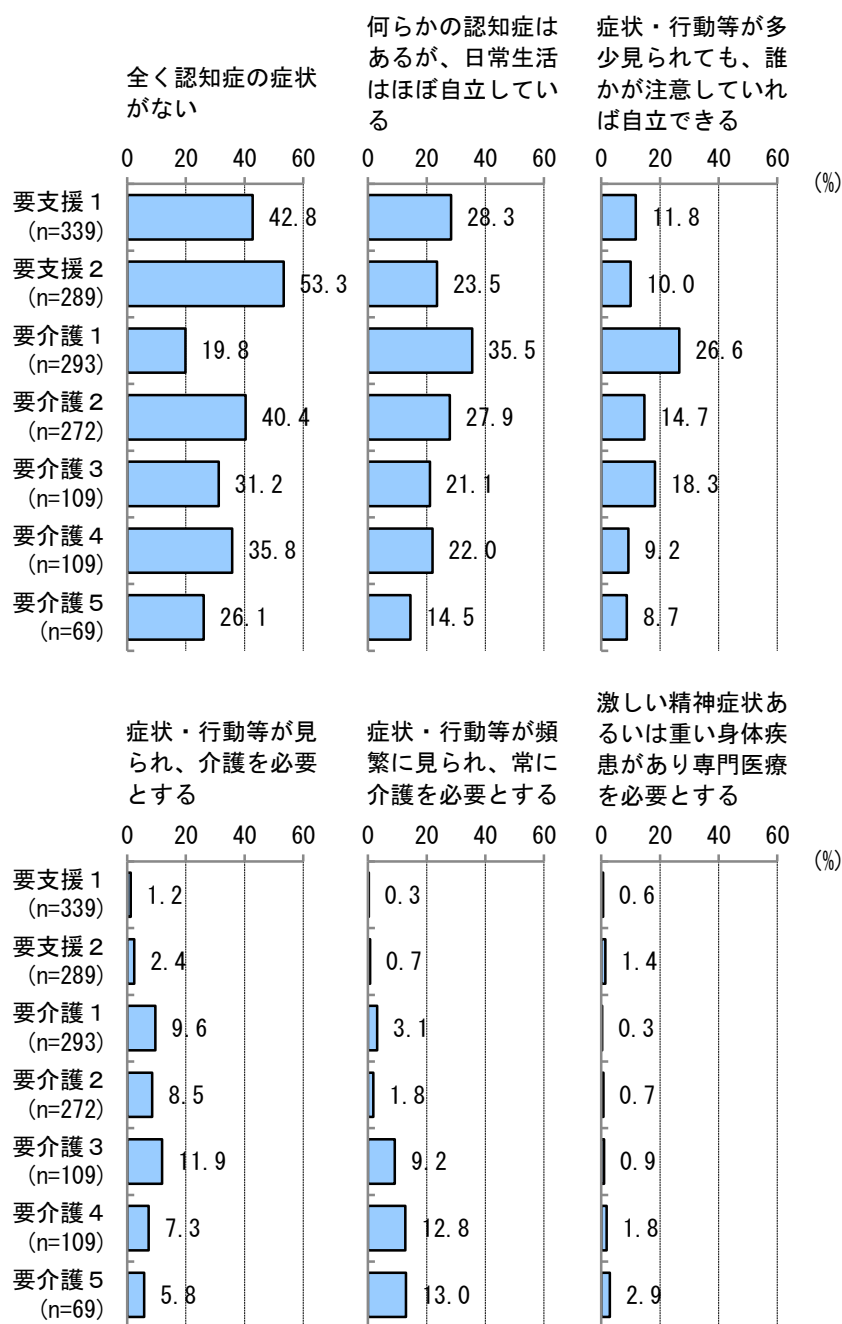
【B 図 43[40] 本人の認知症の程度（経年比較）】



※前回調査の「その他」は、今回調査では設けていない。

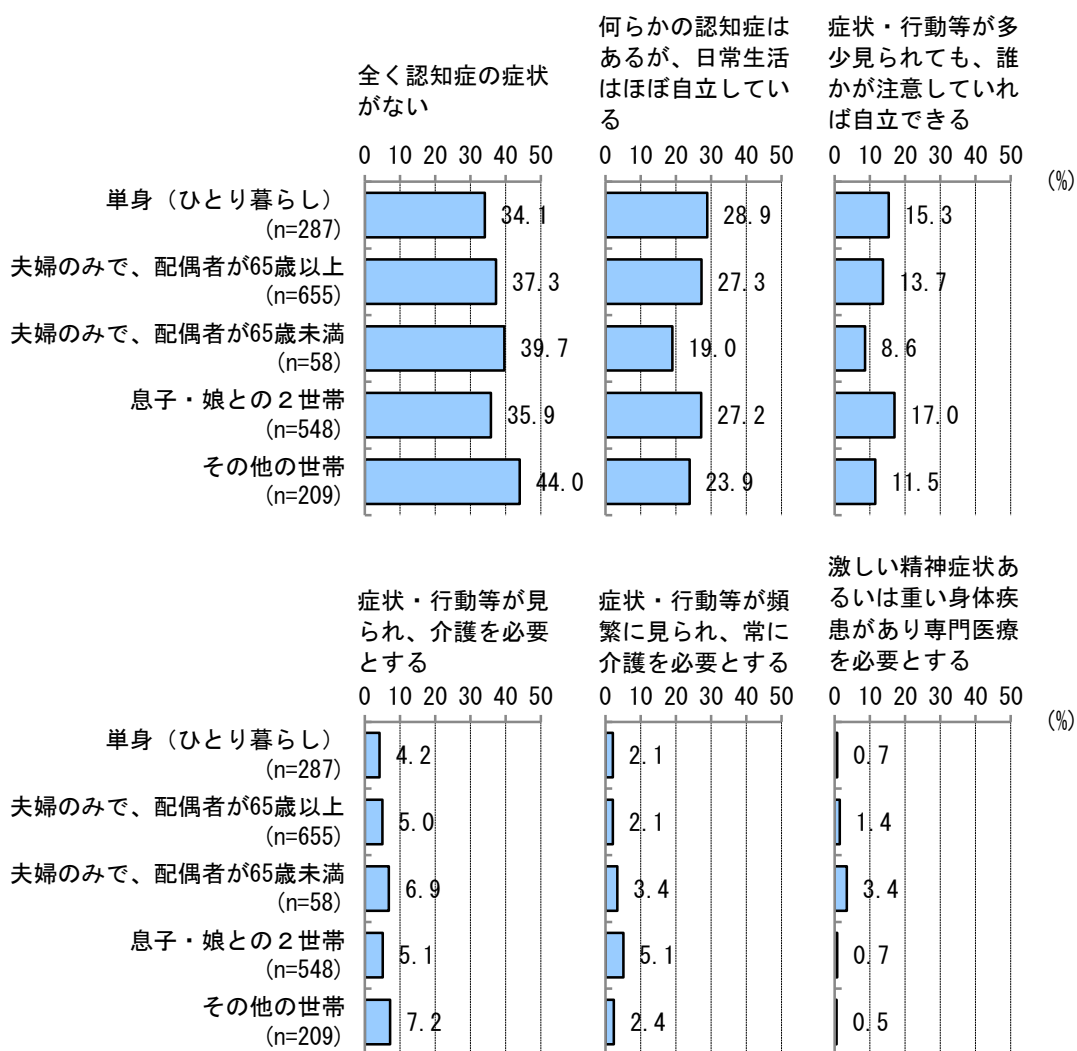
本人の要介護度別でみると、要支援１・２と要介護２～５は「全く認知症を有しない」が最も多くなっている。要介護１では「何らかの認知症はあるが、日常生活はほぼ自立している」が最も多くなっている。（Ｂ図４３[４０]-a）

【Ｂ図 43[40]-a 本人の認知症の程度（本人の要介護度別）】



世帯状況別でみると、いずれの世帯も「全く認知症を有しない」が最も多くなっている。(B
図43[40]-b)

【B 図 43[40]-b 本人の認知症の程度（世帯状況別）】



令和4年度 高齢者実態調査報告書 《介護支援専門員調査》

認知症関連抜粋

大 阪 市

－ 目 次 －

介護支援専門員調査結果	35
問 24 A C P（人生会議）の実施状況.....	35
問 38 認知症高齢者等へのケアプラン作成にあたっての困難	36
問 38-Ⅰ 認知症高齢者等へのケアプラン作成にかかる課題解決の対応	37

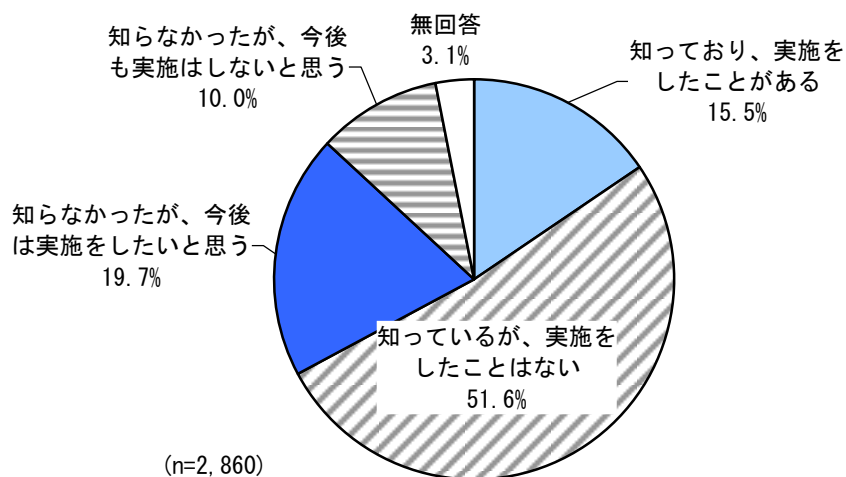
介護支援専門員調査結果

問24 ACP（人生会議）の実施状況

介護支援専門員業務において、ACP（人生会議）を実施していますか。（○はひとつ）

ACP（人生会議）の実施状況については、「知っているが、実施をしたことはない」が51.6%で最も多く、次いで「知らなかったが、今後は実施をしたいと思う」が19.7%、「知っており、実施をしたことがある」が15.5%、「知らなかったが、今後も実施はしないと思う」が10.0%となっている。

【図 24 ACP（人生会議）の実施状況】



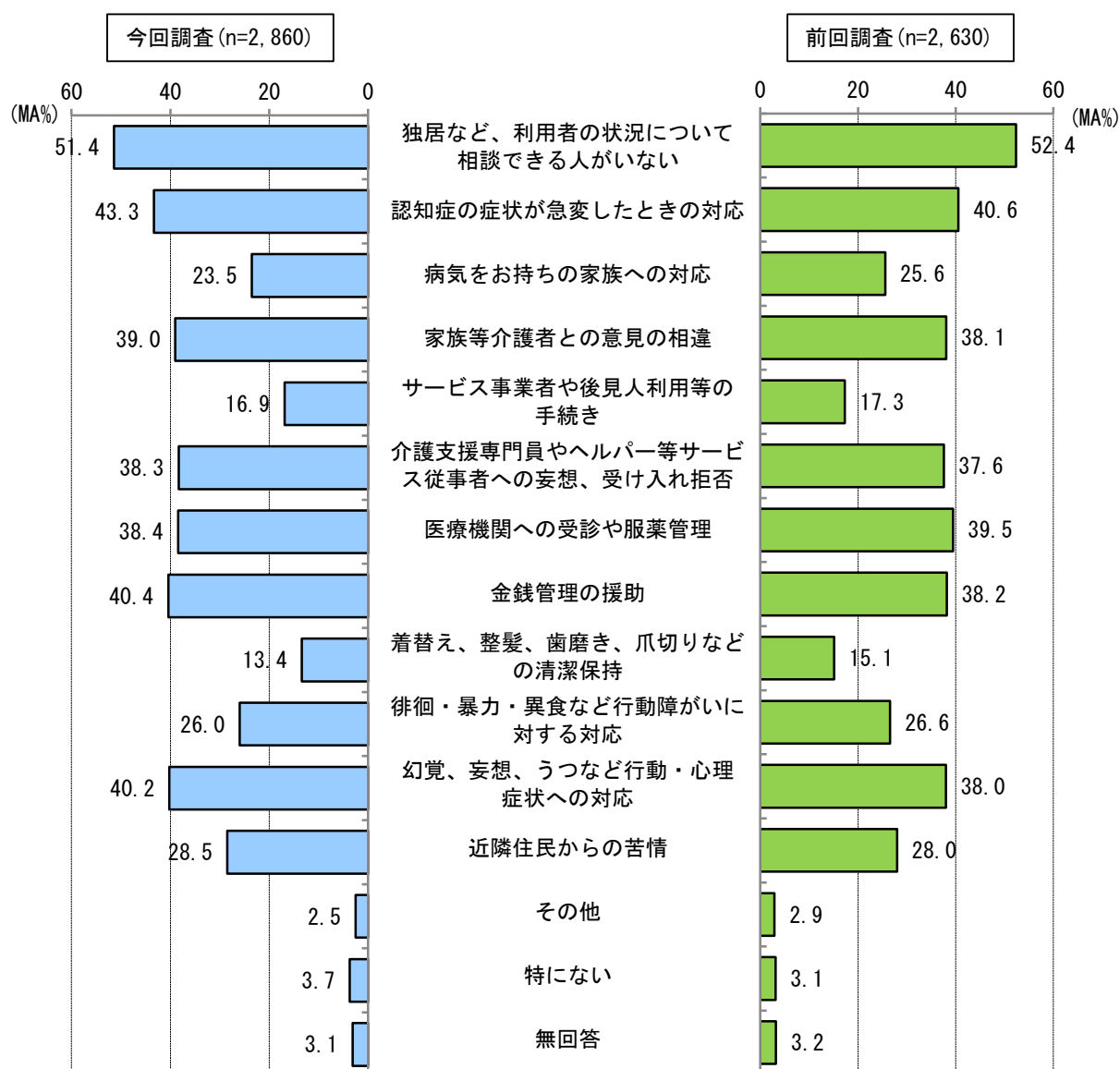
問38 認知症高齢者等へのケアプラン作成にあたっての困難

担当する認知症や障がいのある高齢者のケアプラン作成にあたって、特に困難を感じていることはありますか。(〇はいいくつでも)

認知症高齢者等へのケアプラン作成にあたっての困難については、「独居など、利用者の状況について相談できる人がいない」が51.4%で最も多く、次いで「認知症の症状が急変したときの対応」が43.3%、「金銭管理の援助」が40.4%、「幻覚、妄想、うつなど行動・心理症状への対応」が40.2%となっている。

前回調査と比較すると、概ね前回と同様の傾向となっている。(図38)

【図 38 認知症高齢者等へのケアプラン作成にあたっての困難（経年比較）】



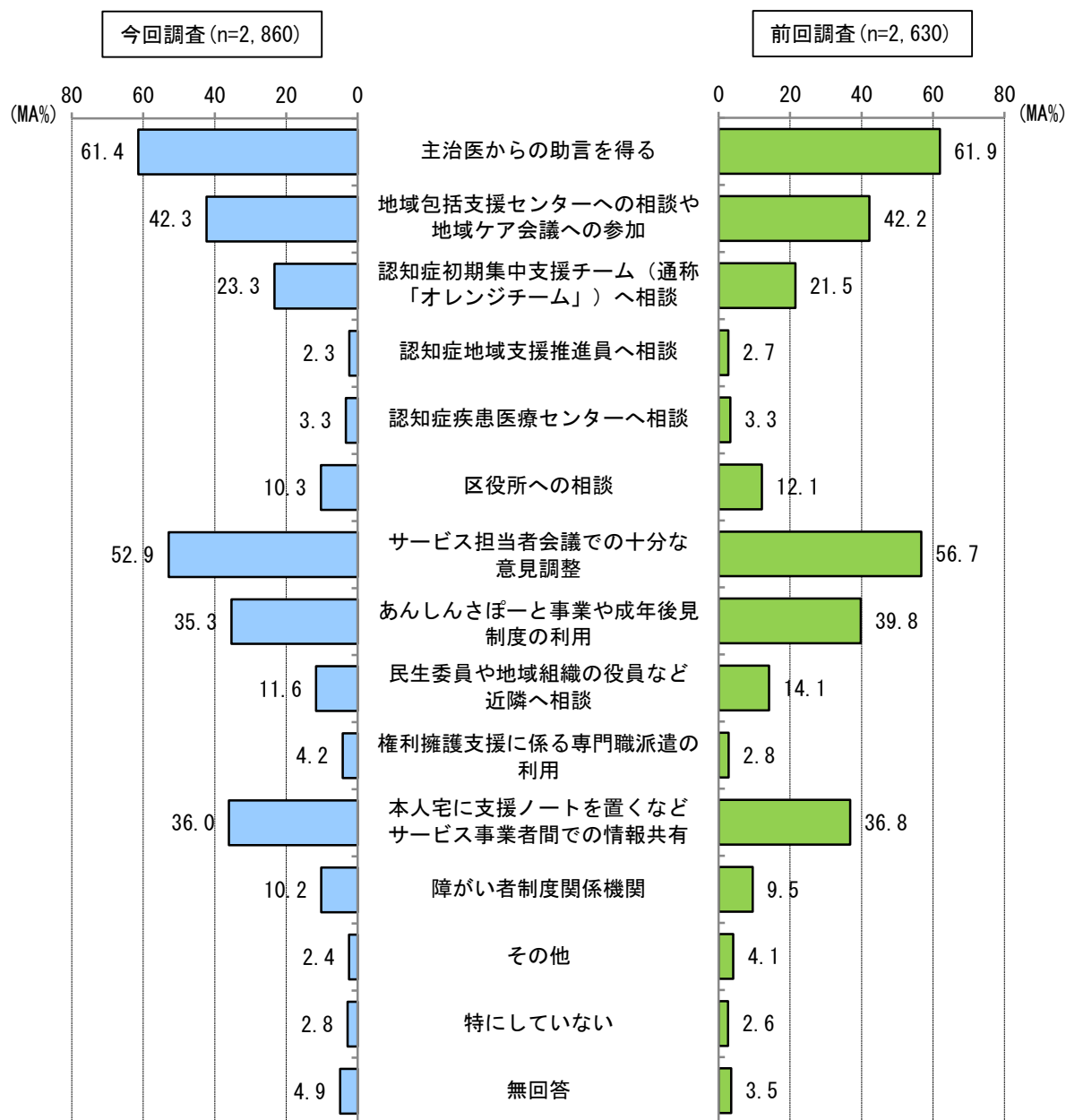
問38-1 認知症高齢者等へのケアプラン作成にかかる課題解決の対応

問38の課題解決のために、どのような対応をしていますか。(〇はいくつでも)

認知症高齢者等へのケアプラン作成にかかる課題解決の対応については、「主治医からの助言を得る」が61.4%で最も多く、次いで「サービス担当者会議での十分な意見調整」が52.9%、「地域包括支援センターへの相談や地域ケア会議への参加」が42.3%となっている。

前回調査と比較すると、「あんしんさぼーと事業や成年後見制度の利用」の割合が4.5ポイント低くなっている。(図38-1)

【図 38-1 認知症高齢者等へのケアプラン作成にかかる課題解決の対応（経年比較）】



※前回調査の「大阪市社会福祉研修・情報センターでの専門相談の利用」は、今回調査では「権利擁護支援に係る専門職派遣の利用」に変更している。

令和4年度 高齢者実態調査報告書 《施設調査》

認知症関連抜粋

大 阪 市

－ 目 次 －

施設調査結果	41
問 14 施設での認知症の人への対応における課題	41

施設調査結果

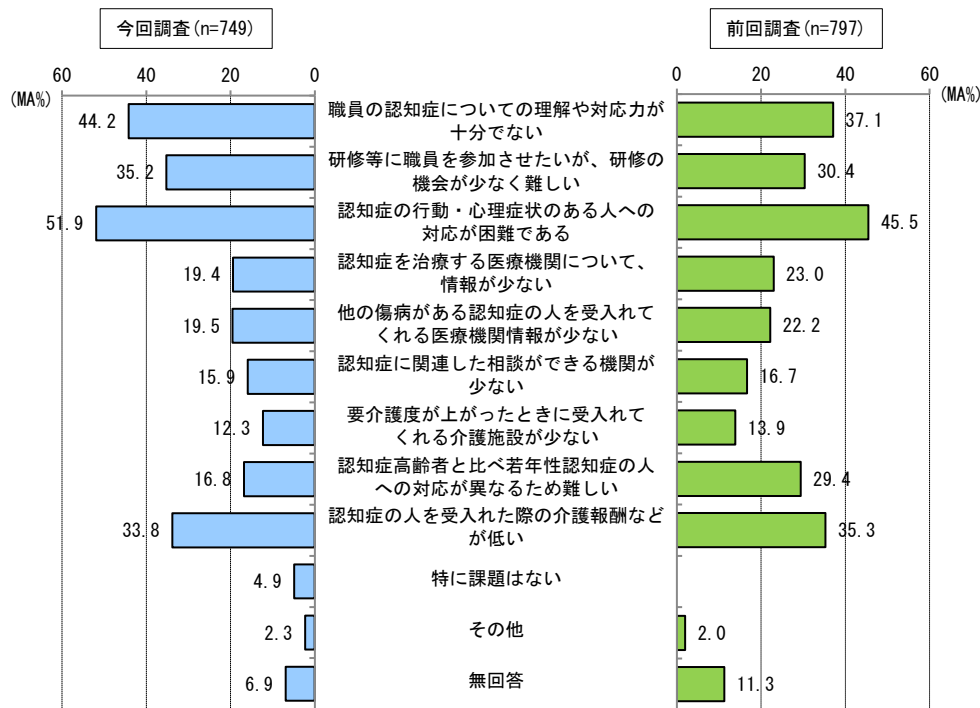
問14 施設での認知症の人への対応における課題

施設での認知症の人への対応における課題について、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

施設での認知症の人への対応における課題については、「認知症の行動・心理症状のある人への対応が困難である」が51.9%で最も多く、次いで「職員の認知症についての理解や対応力が十分でない」が44.2%となっている。

前回調査と比較すると、「認知症高齢者と比べ若年性認知症の人への対応が異なるため難しい」の割合は12.6ポイント低くなっている。（図14）

【図14 施設での認知症の人への対応における課題（経年比較）】



※「特に課題はない」は、今回調査の新規項目である。

施設別でみると、“特別養護老人ホーム”では「認知症の行動・心理症状のある人への対応が困難である」が60.9%と高くなっている。（表14-a）

【表14-a 施設での認知症の人への対応における課題（施設別）】

	n	職員の認知症についての理解や対応力が十分でない	研修等に職員を参加させたいが、研修の機会が少なく難しい	認知症の行動・心理症状のある人への対応が困難である	認知症を治療する医療機関について、情報が少ない	他の傷病がある認知症の人を受入れてくれる医療機関情報が少ない	認知症に関連した相談ができる機関が少ない	要介護度が上がったときに受入れてくれる介護施設が少ない	認知症高齢者と比べ若年性認知症の人への対応が異なるため難しい	認知症の人を受入れた際の介護報酬などが低い	特に課題はない	その他	無回答
介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	110	55.5	41.8	60.9	20.0	22.7	15.5	9.1	21.8	43.6	0.9	0.9	4.5
地域密着型介護老人福祉施設（地域密着型特別養護老人ホーム）	15	80.0	40.0	60.0	13.3	13.3	20.0	13.3	20.0	53.3	-	-	-
介護老人保健施設	54	42.6	27.8	59.3	14.8	18.5	20.4	25.9	16.7	40.7	3.7	5.6	3.7
介護医療院・介護療養型医療施設	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
養護老人ホーム	8	75.0	62.5	62.5	-	12.5	-	12.5	12.5	25.0	12.5	-	-
軽費老人ホーム	15	40.0	13.3	80.0	20.0	13.3	20.0	40.0	6.7	-	-	13.3	-
生活支援ハウス	3	-	66.7	66.7	66.7	33.3	-	-	33.3	-	-	-	33.3
認知症高齢者グループホーム	156	46.2	41.7	50.6	17.3	20.5	10.9	12.2	17.9	34.0	3.8	2.6	7.1
有料老人ホーム	266	35.7	28.6	49.2	21.4	18.0	19.2	10.2	15.4	31.2	6.4	0.8	8.6
有料該当のサービス付き高齢者向け住宅	27	55.6	40.7	44.4	14.8	29.6	14.8	22.2	11.1	25.9	7.4	7.4	3.7
サービス付き高齢者向け住宅	94	42.6	38.3	42.6	21.3	18.1	13.8	7.4	16.0	31.9	8.5	3.2	9.6

介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査結果 報 告 書

認知症関連抜粋

令和5年3月

大 阪 市

一 目 次

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果.....	45
10 認知症にかかる相談窓口の把握について	45
(1) 認知症の症状の有無	45
(2) 認知症に関する相談窓口の認知度	46
(3) 知っている認知症に関する相談窓口	47
(4) 認知症について不安に感じるときの相談相手	49

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

10 認知症にかかる相談窓口の把握について

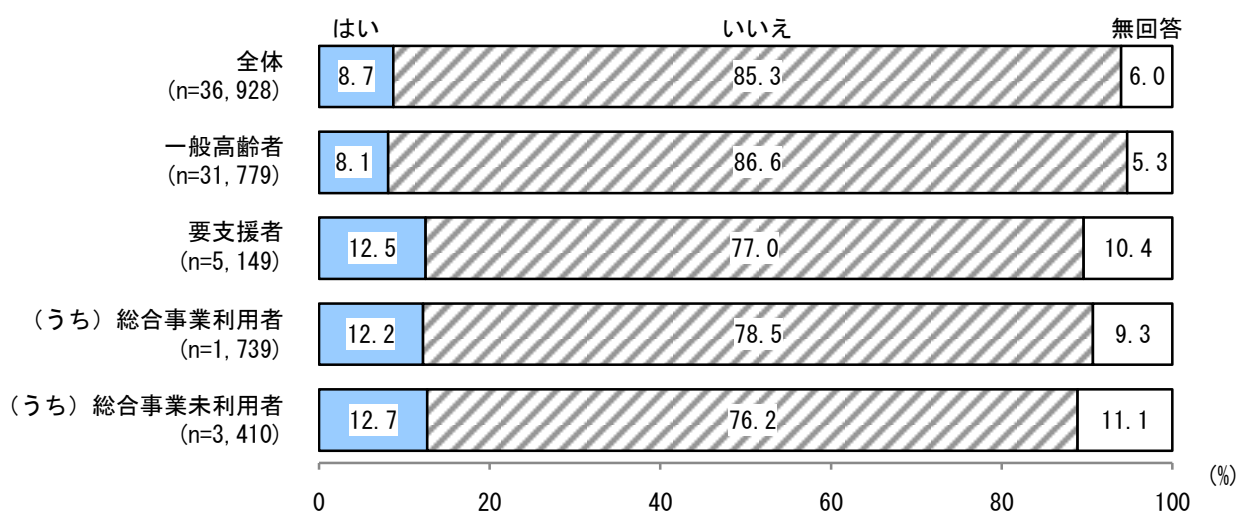
(1) 認知症の症状の有無

問 認知症の症状がある、又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(○はひとつ)

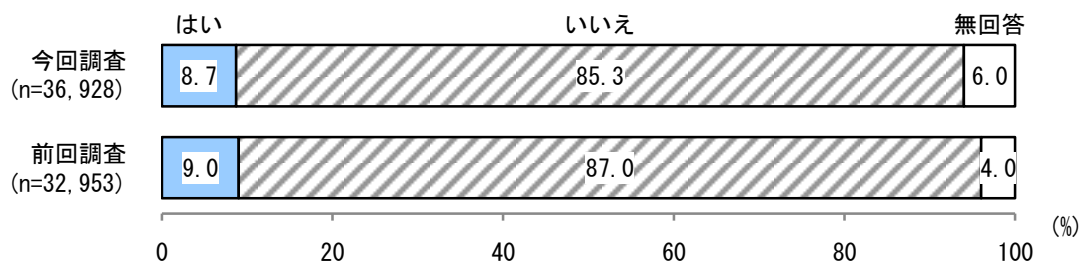
自身または家族に認知症の症状がある(「はい」と回答している)人は約1割(8.7%)となっている。

認定状況別でみると、自身または家族に認知症の症状がある人は要支援者で1割(12.5%)を超えている。(図10-1)

【図 10-1 認知症の症状の有無】

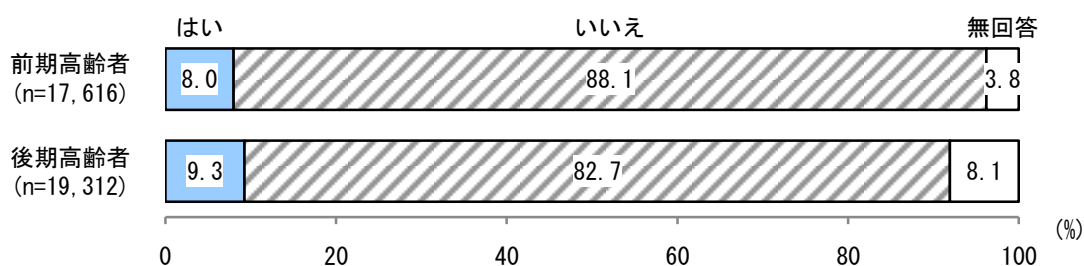


【参考 認知症の症状の有無(経年比較)】



年齢別でも、大きな差はみられない。(図10-1-1)

【図 10-1-1 年齢別 認知症の症状の有無】

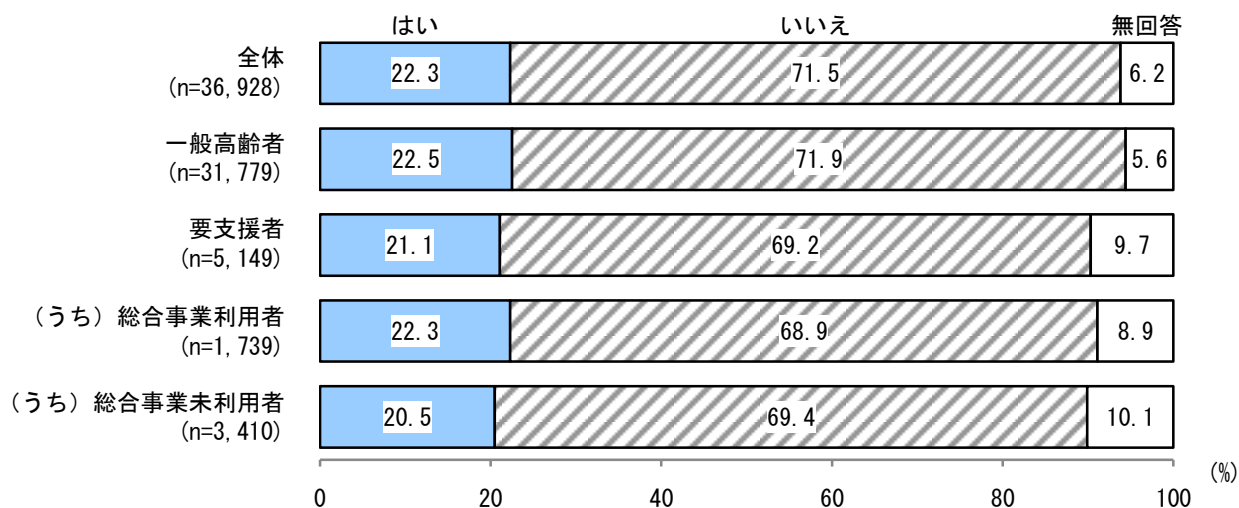


(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

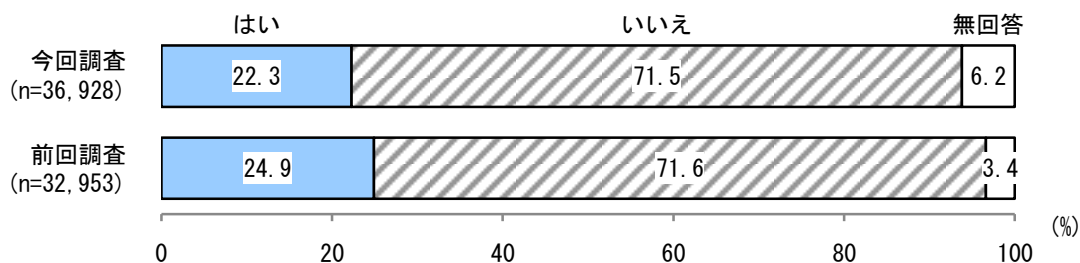
問 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(〇はひとつ)

認知症に関する相談窓口を知っている(「はい」と回答している)人は2割台(22.3%)となっている。(図10-2)

【図 10-2 認知症に関する相談窓口の認知度】

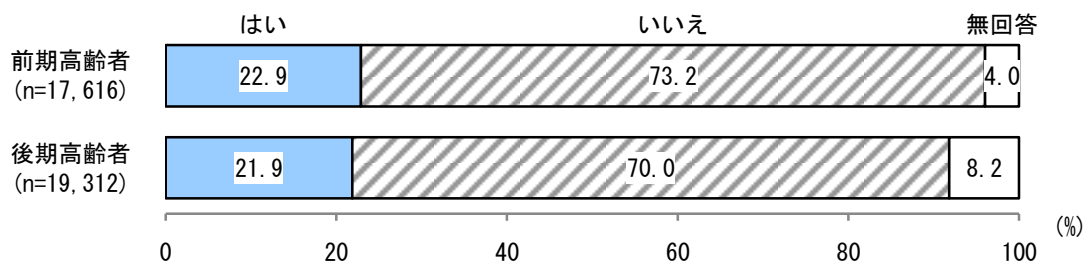


【参考 認知症に関する相談窓口の認知度(経年比較)】



年齢別でも、大きな差はみられない。(図10-2-1)

【図 10-2-1 年齢別 認知症に関する相談窓口の認知度】



(3) 知っている認知症に関する相談窓口

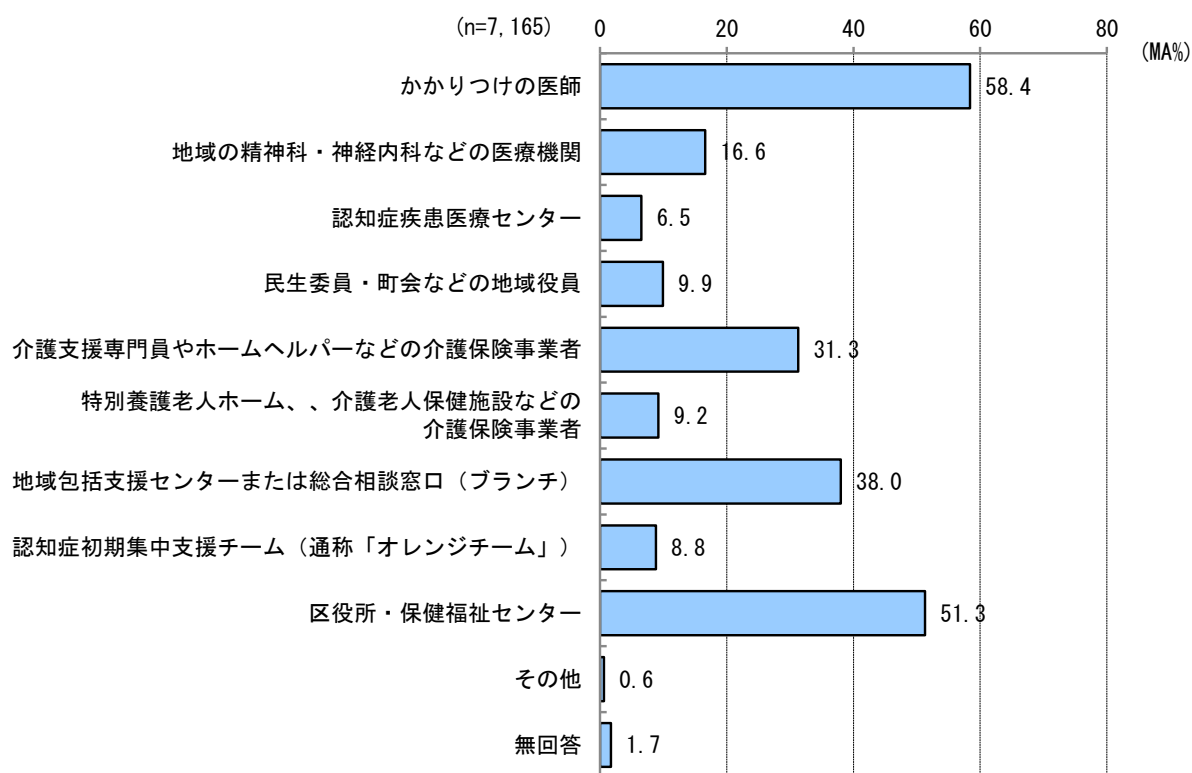
【「1 はい」と回答された方におうかがいします】

問 あなたが認知症に関する相談窓口として知っているところはどこですか。(〇はいくつでも)

認知症に関する相談窓口を知っていると回答した人に、知っている相談窓口についてたずねると、「かかりつけの医師」が58.4%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」が51.3%、「地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）」が38.0%となっている。(図10-3)

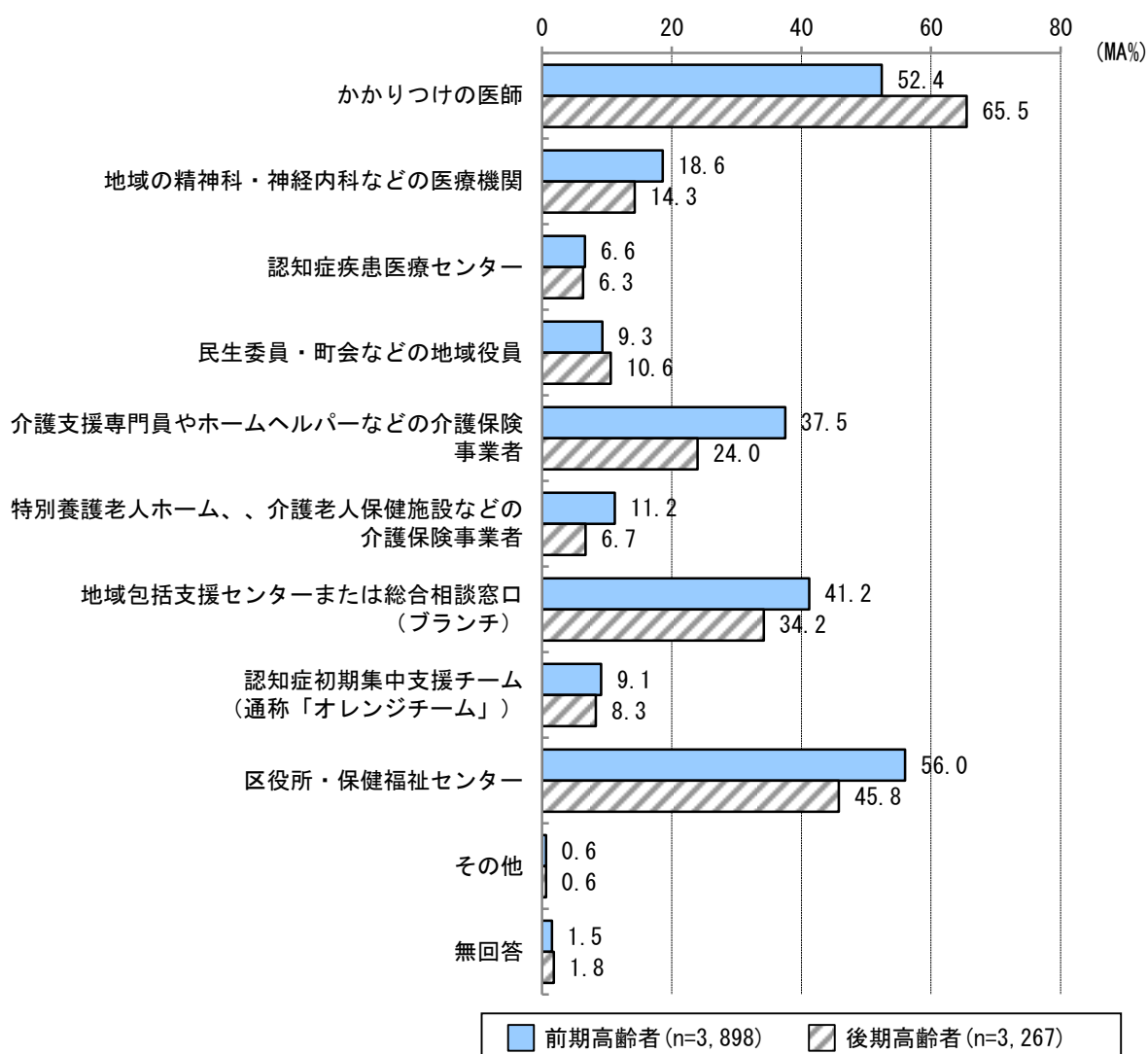
【図 10-3 知っている認知症に関する相談窓口】

※一般高齢者のみ



年齢別でみると、前期高齢者は「区役所・保健福祉センター」(56.0%)が最も多く、後期高齢者では「かかりつけの医師」(65.5%)が最も多くなっている。(図10-3-1)

【図10-3-1 年齢別 知っている認知症に関する相談窓口】

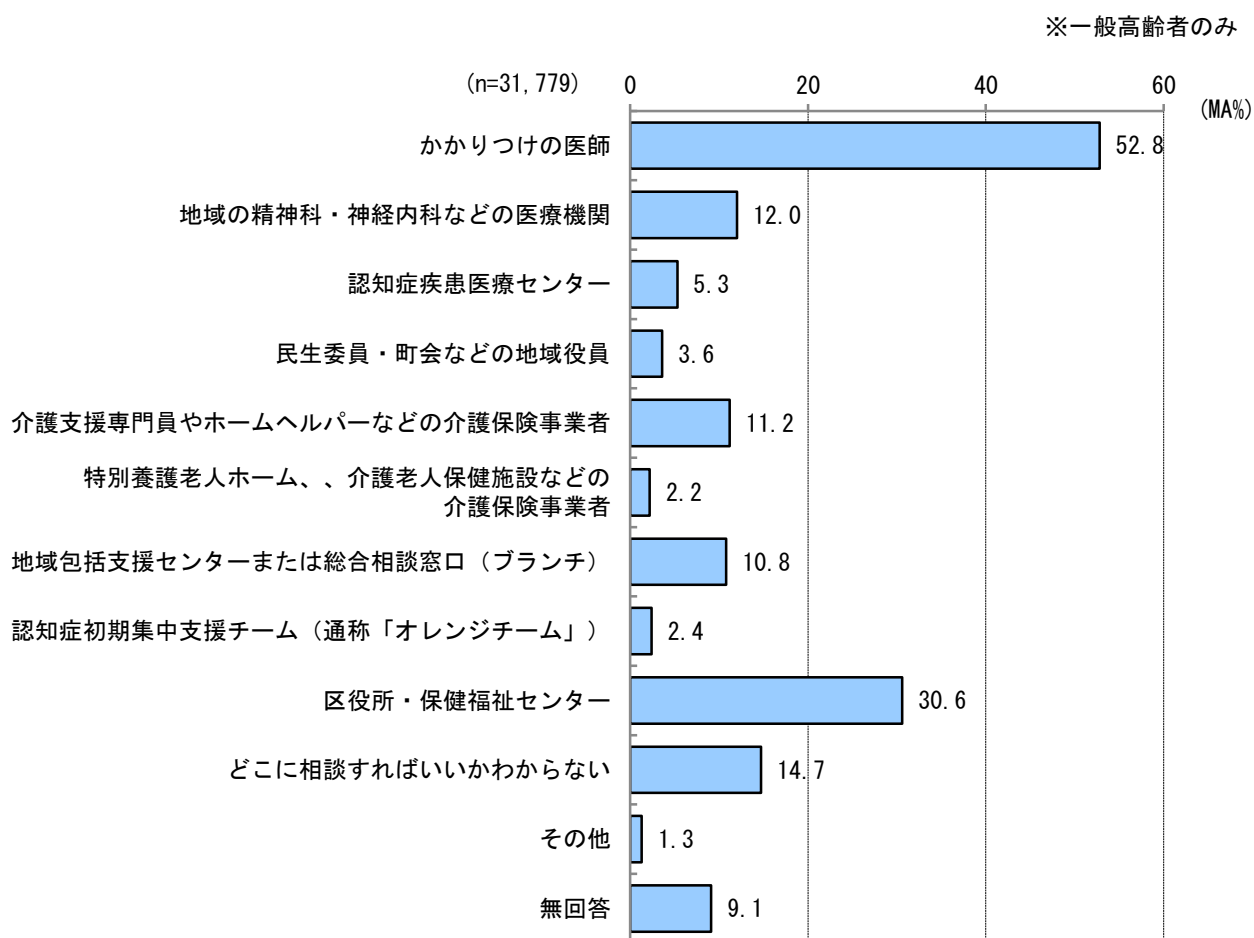


(4) 認知症について不安に感じるときの相談相手

問 あなたは、あなた又はあなたのご家族が認知症について不安に感じるときは、どちらに相談されますか。(〇はいくつでも)

認知症について不安に感じるときの相談相手については、「かかりつけの医師」が52.8%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センター」が30.6%、「どこに相談すればいいかわからない」が14.7%、「地域の精神科・神経内科などの医療機関」が12.0%となっている。
(図10-4)

【図 10-4 認知症について不安に感じるときの相談相手】



年齢別でみると、前期、後期高齢者とも「かかりつけの医師」が最も多く、前期高齢者（47.8%）より後期高齢者（58.5%）のほうが10.7ポイント高くなっている。（図10-4-1）

【図 10-4-1 年齢別 認知症について不安に感じるときの相談相手】

